

【第21回】南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会  
【第399回】地震防災対策強化地域判定会

— 産 総 研 資 料 —

令和元年7月5日

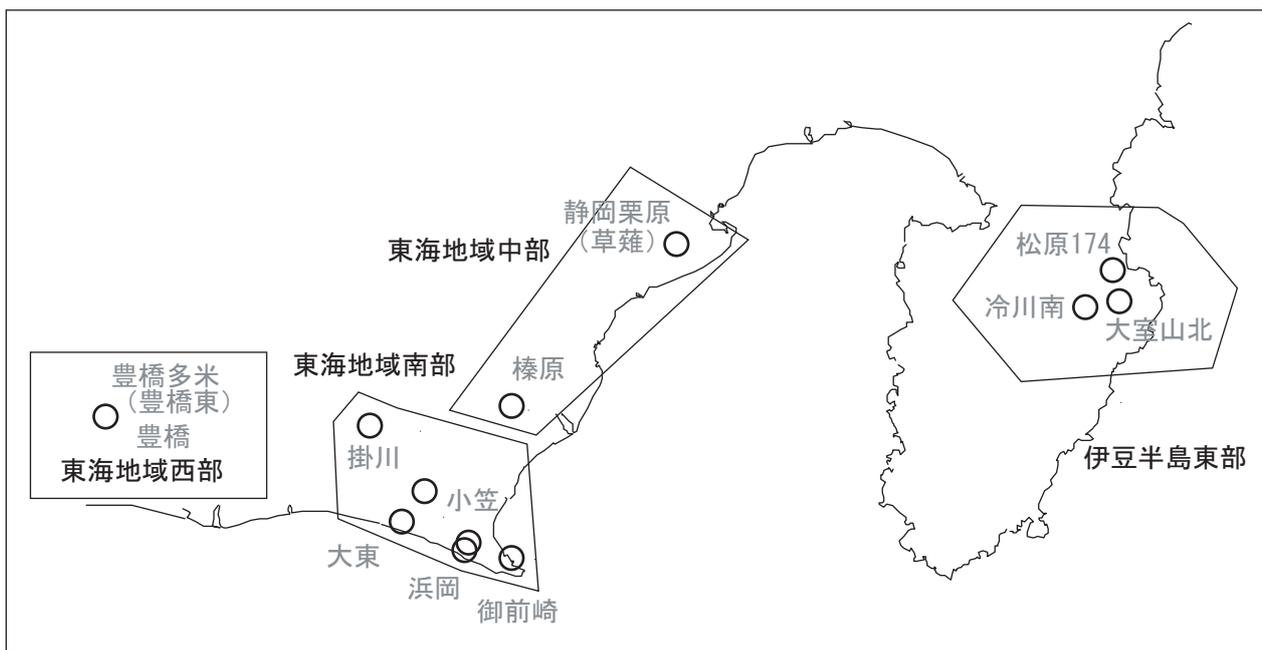


国立研究開発法人  
産業技術総合研究所

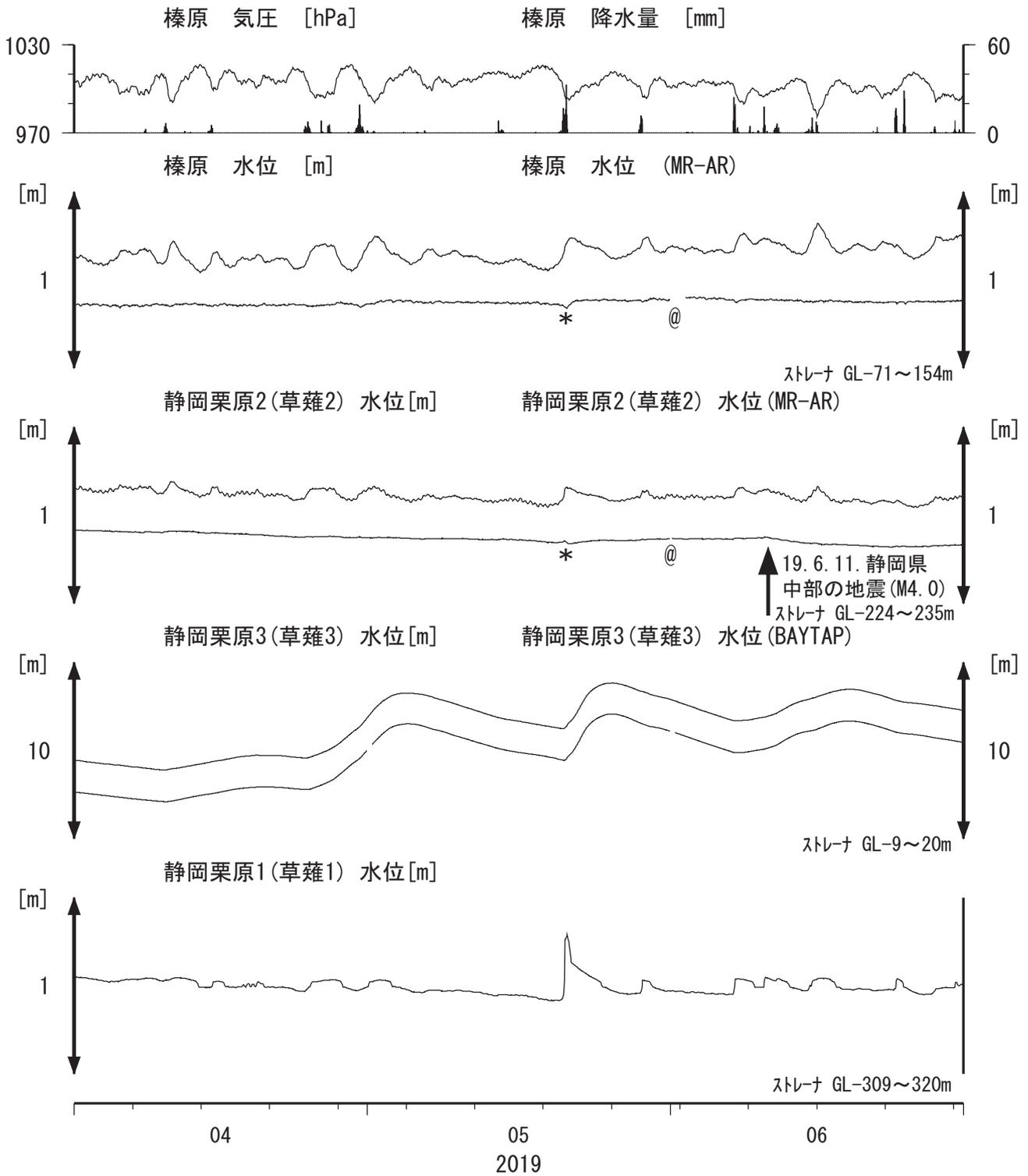
# 【資料目次】

## 表紙

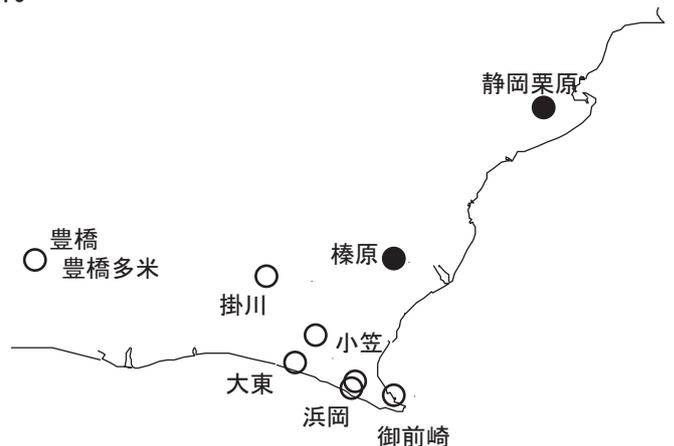
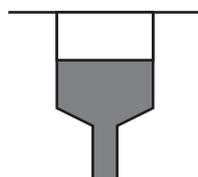
1. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水; 中期
2. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水; 長期
3. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水; 中期
4. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水; 長期
- 4-b. 東海地域南部 [浜岡] 地下水・沈下; 長期
- 4-c. 東海地域南部 [掛川] 地下水・沈下; 長期
5. 東海地域西部 [豊橋, 豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜; 中期
- 5-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等; 中期
6. 東海地域西部 [豊橋・豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜; 長期
- 6-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等; 長期
7. 伊豆半島東部 [松原174, 大室山北, 冷川南] 地下水; 中期
8. 伊豆半島東部 [松原174, 大室山北, 冷川南] 地下水; 長期
- 9-a. 榛原・浜岡の降雨グラフ; 中期
- 9-b. 榛原・浜岡の降雨グラフ; 長期
10. 東海・紀伊半島・四国における短期的SSE解析結果
11. 室戸岬観測点および串本津荷観測点における地震後の歪変化について



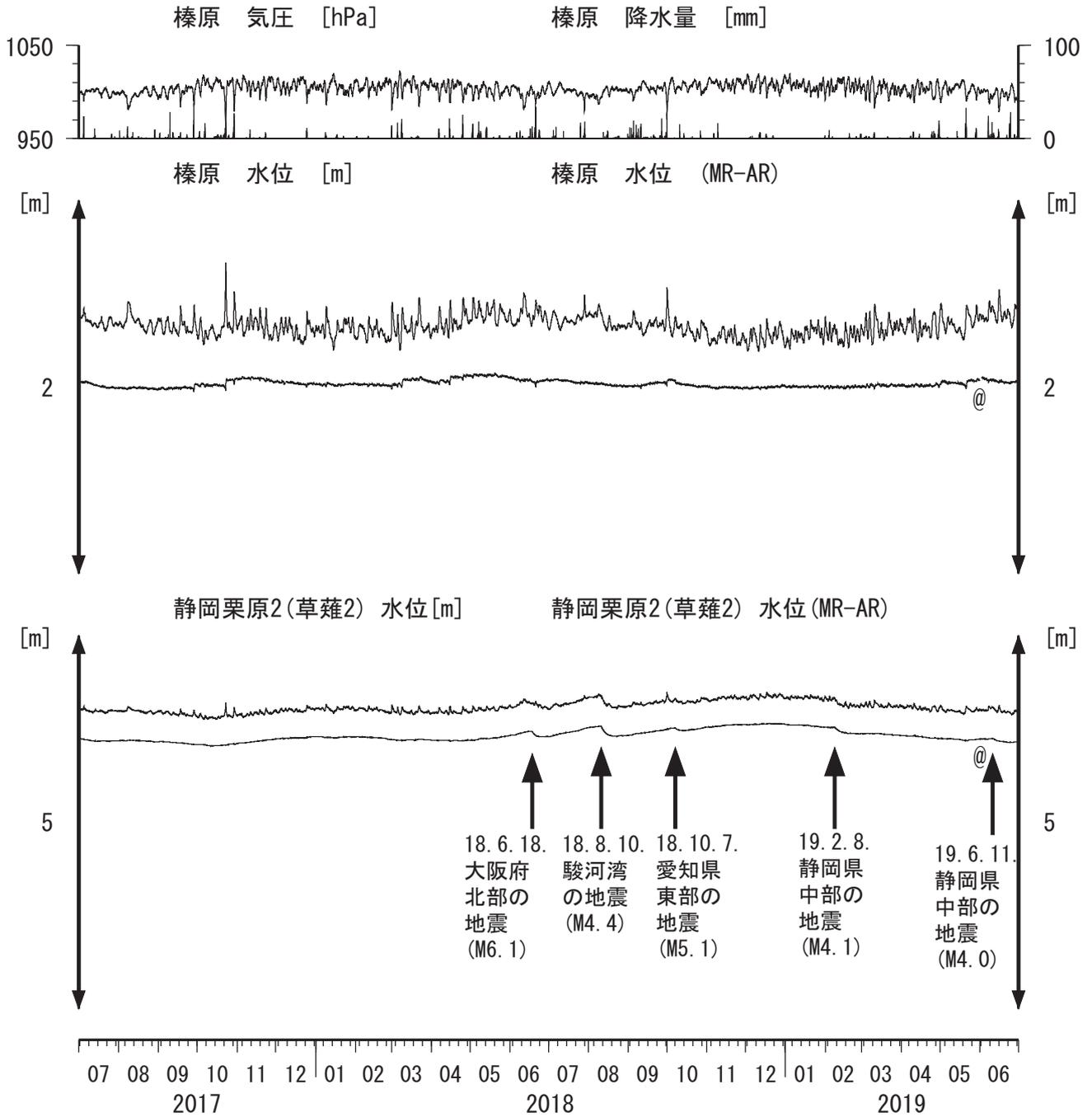
東海地域中部（榛原・草薙）中期 （時間値）  
 (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント：\*；雨量補正不十分。\$；保守。?；不明。  
 @；月初めの補正值のギャップは、  
 解析プログラムの見かけ上のものである。  
 2015年4月中旬に静岡栗原1の水位が  
 井戸管の広い部分まで上昇したので  
 それ以降の水位変化が  
 小さくなっている。



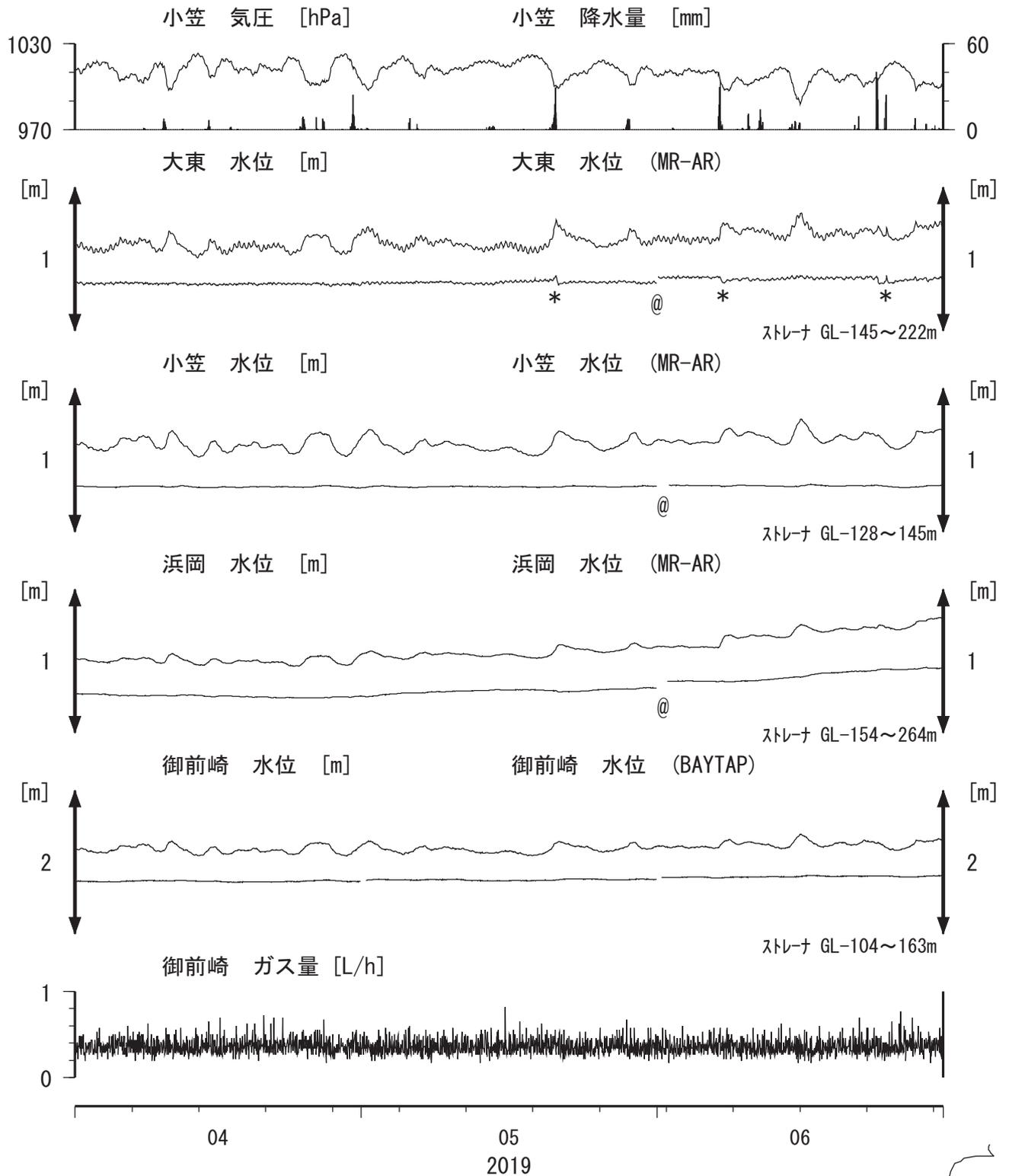
東海地域中部（榛原・草薙）長期（時間値）  
 (2017/07/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント：\*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.  
 @;月初めの補正值のギャップは、  
 解析プログラムの見かけ上のものである。



東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)  
 (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))

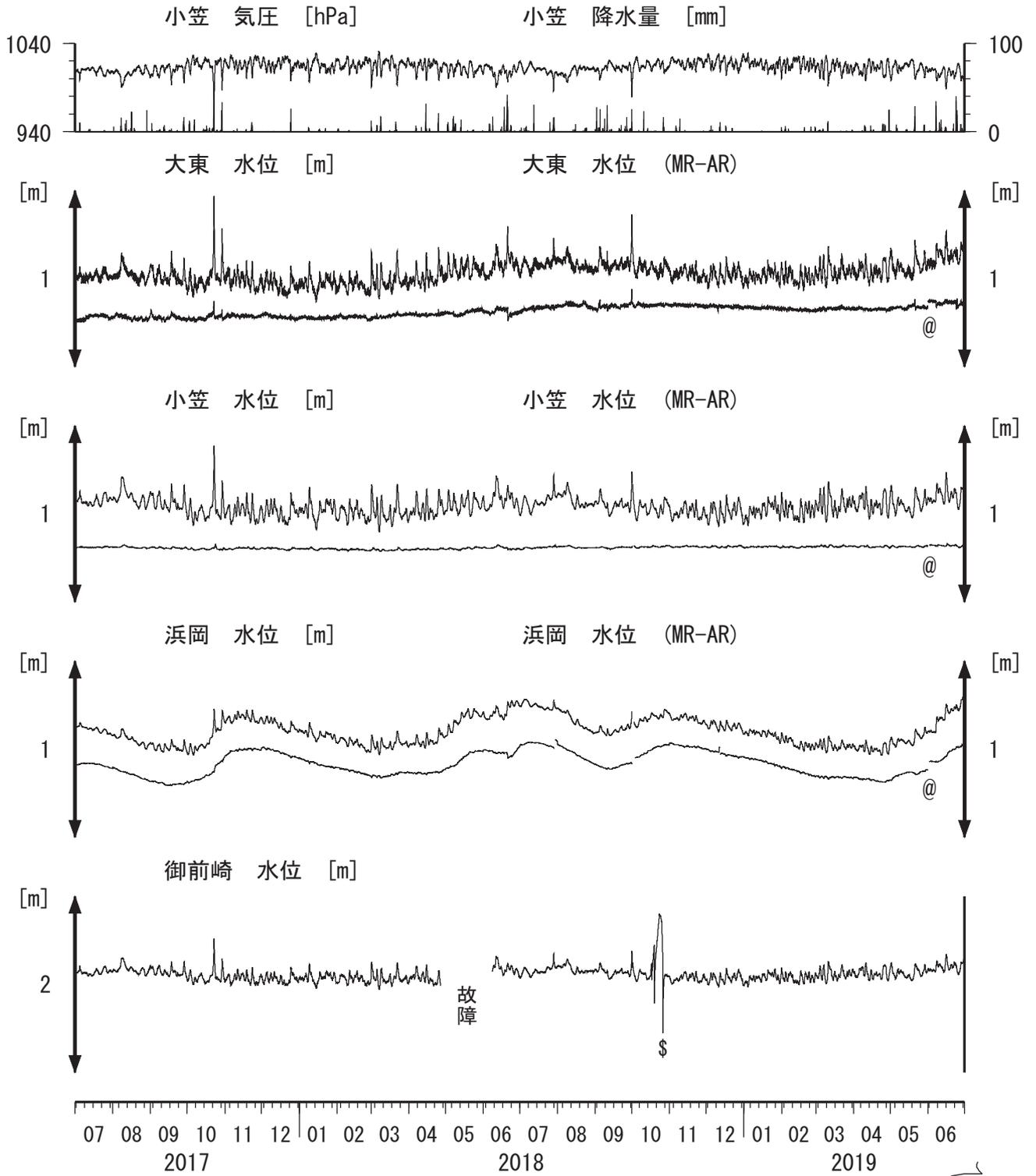


コメント:

\*;雨量補正不十分, \$:保守. ?;不明.  
 @;月初めの補正値のギャップは,  
 解析プログラムの見かけ上のものである.



東海地域南部 地下水観測結果 長期 (時間値)  
 (2017/07/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント:

\*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.

@;月初めの補正値のギャップは、  
 解析プログラムの見かけ上のものである。

2017年2月16日に御前崎ガス流量システム更新。

2016年12月16日～2017年3月14日、

2018年10月16～26日の御前崎水位は  
 ガス流量計の故障に起因すると思われる。



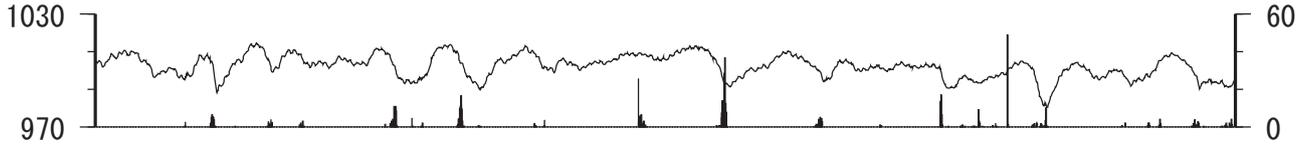




東海地域西部（豊橋・豊橋多米）中期（時間値）  
 (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))

豊橋 気圧 [hPa]

豊橋 雨量 [mm]



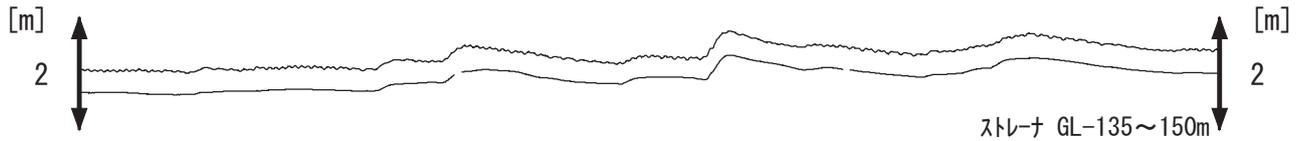
豊橋1 水位 [m]

豊橋1 水位 (BAYTAP)



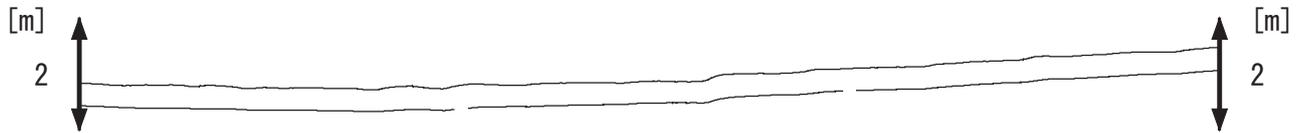
豊橋2 水位 [m]

豊橋2 水位 (BAYTAP)

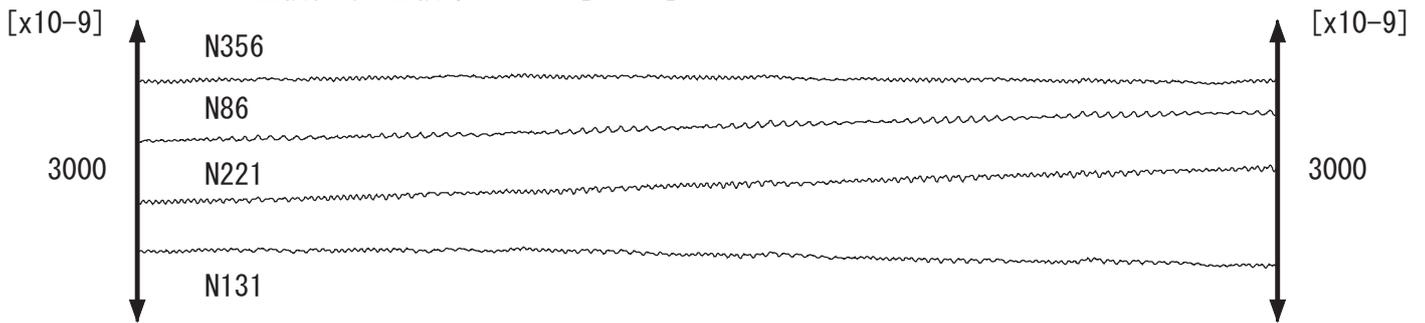


豊橋多米(豊橋東) 水位 [m]

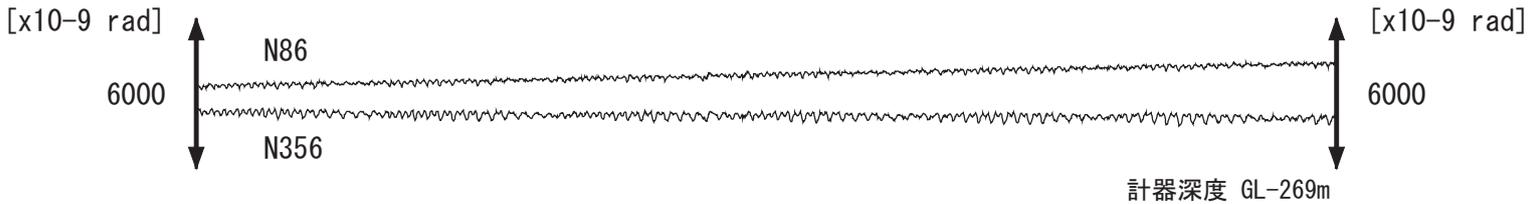
豊橋多米(豊橋東) 水位 (BAYTAP)



豊橋多米(豊橋東) 歪 [x10<sup>-9</sup>]



豊橋多米(豊橋東) 傾斜 [x10<sup>-9</sup> rad]



04

05  
2019

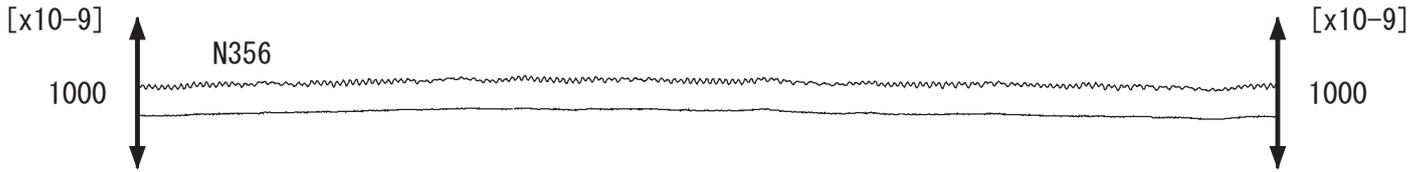
06

コメント：\*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.

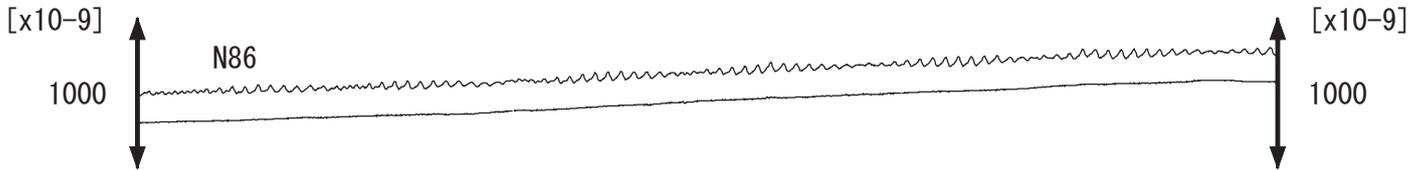


東海地域西部（豊橋多米 歪）中期（時間値）  
 (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))

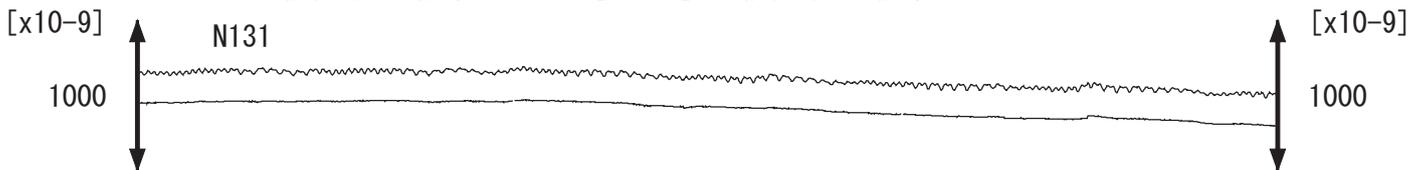
豊橋多米(豊橋東)歪N356E[x10<sup>-9</sup>] 豊橋多米(豊橋東)歪N356E (BAYTAP)



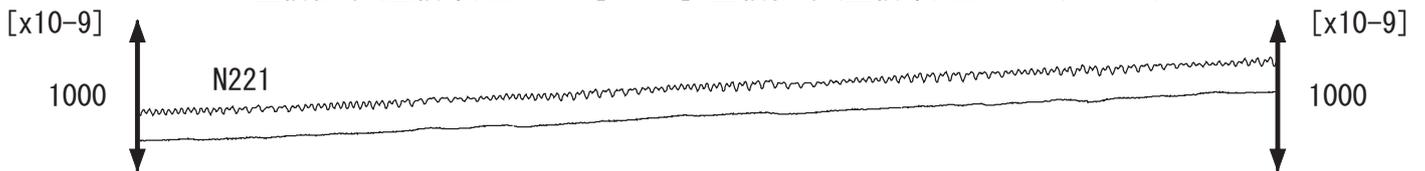
豊橋多米(豊橋東)歪N86E[x10<sup>-9</sup>] 豊橋多米(豊橋東)歪N86E (BAYTAP)



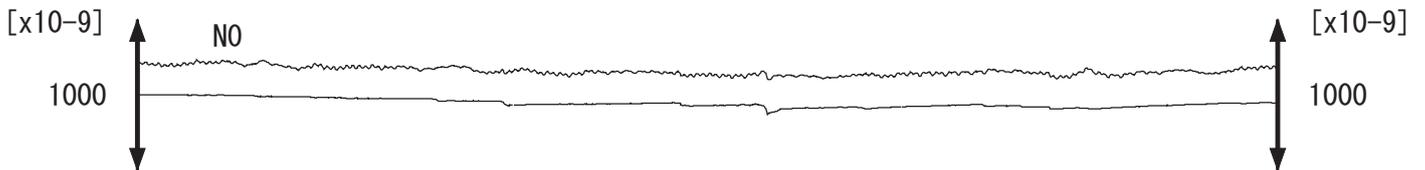
豊橋多米(豊橋東)歪N131E[x10<sup>-9</sup>] 豊橋多米(豊橋東)歪N131E (BAYTAP)



豊橋多米(豊橋東)歪N221E[x10<sup>-9</sup>] 豊橋多米(豊橋東)歪N221E (BAYTAP)



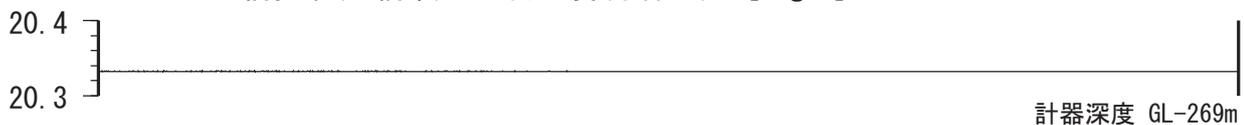
豊橋多米(豊橋東)歪鉛直[x10<sup>-9</sup>] 豊橋多米(豊橋東)歪鉛直 (BAYTAP)



豊橋多米(豊橋東)磁力 N356E [nT]



豊橋多米(豊橋東)歪計温度(水晶式) [deg. C]



04

05  
2019

06

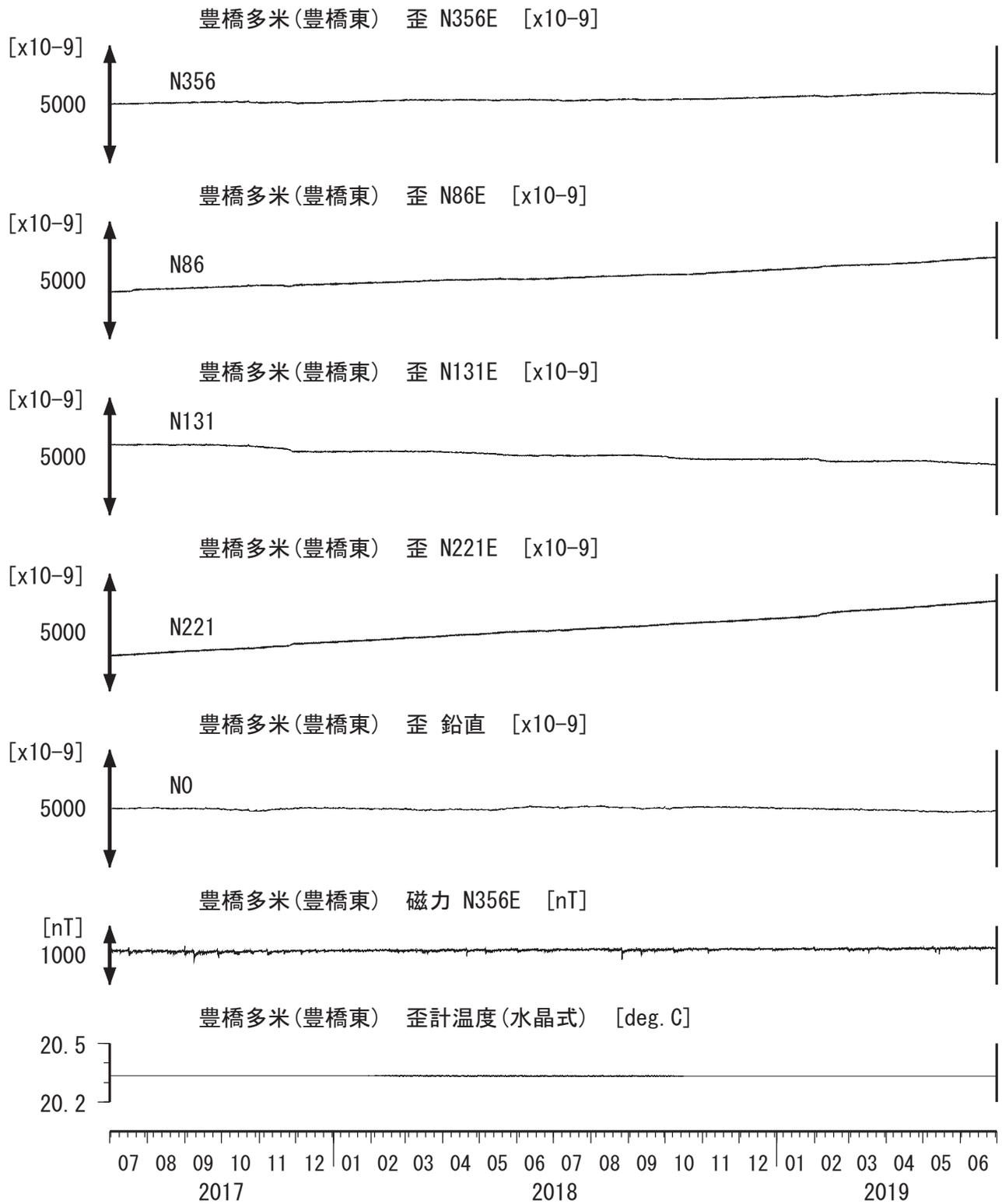
静岡栗原

コメント：\$\*:雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.





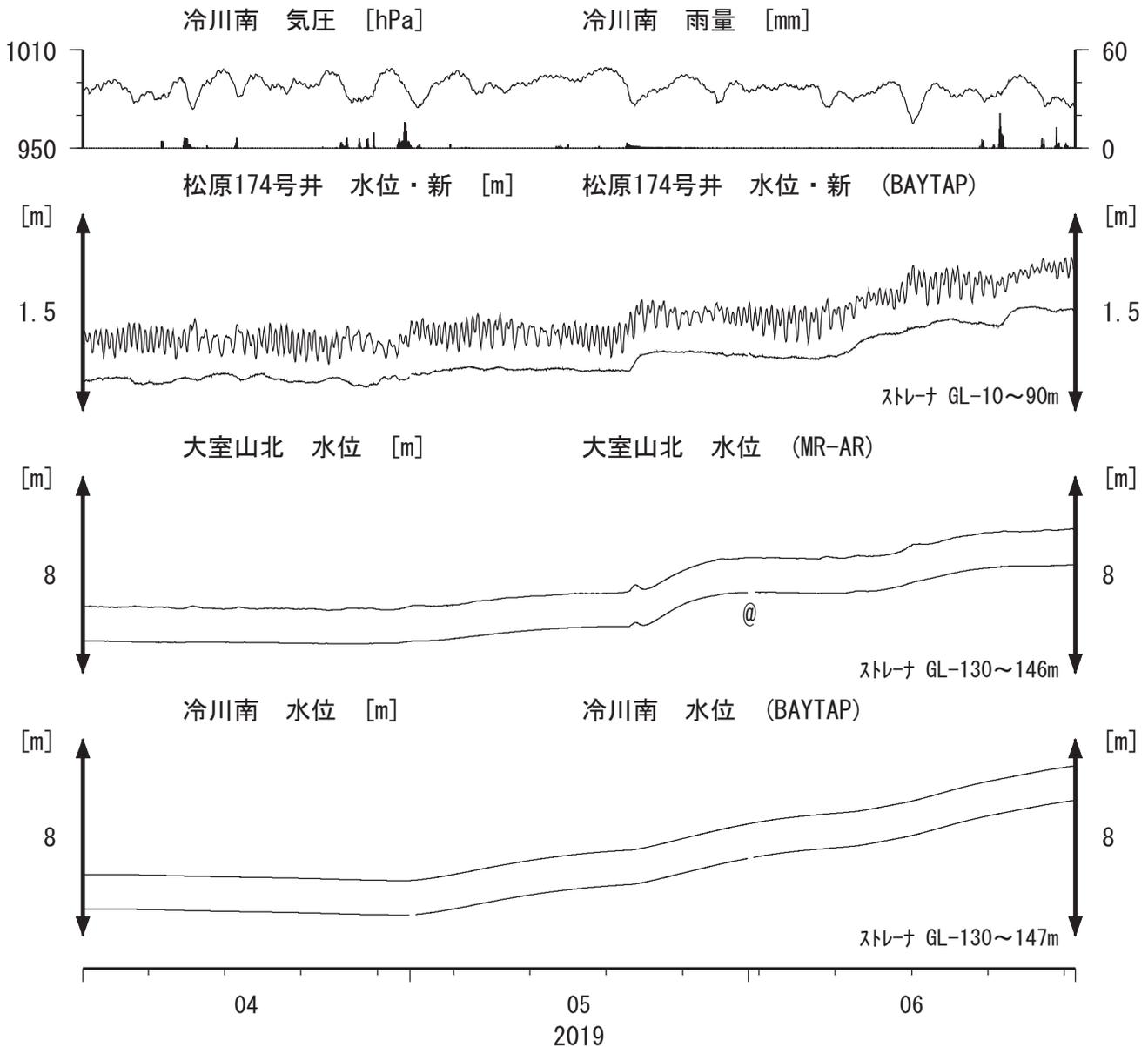
東海地域西部（豊橋多米 歪）長期（時間値）  
 (2017/07/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守. ?;原因不明.



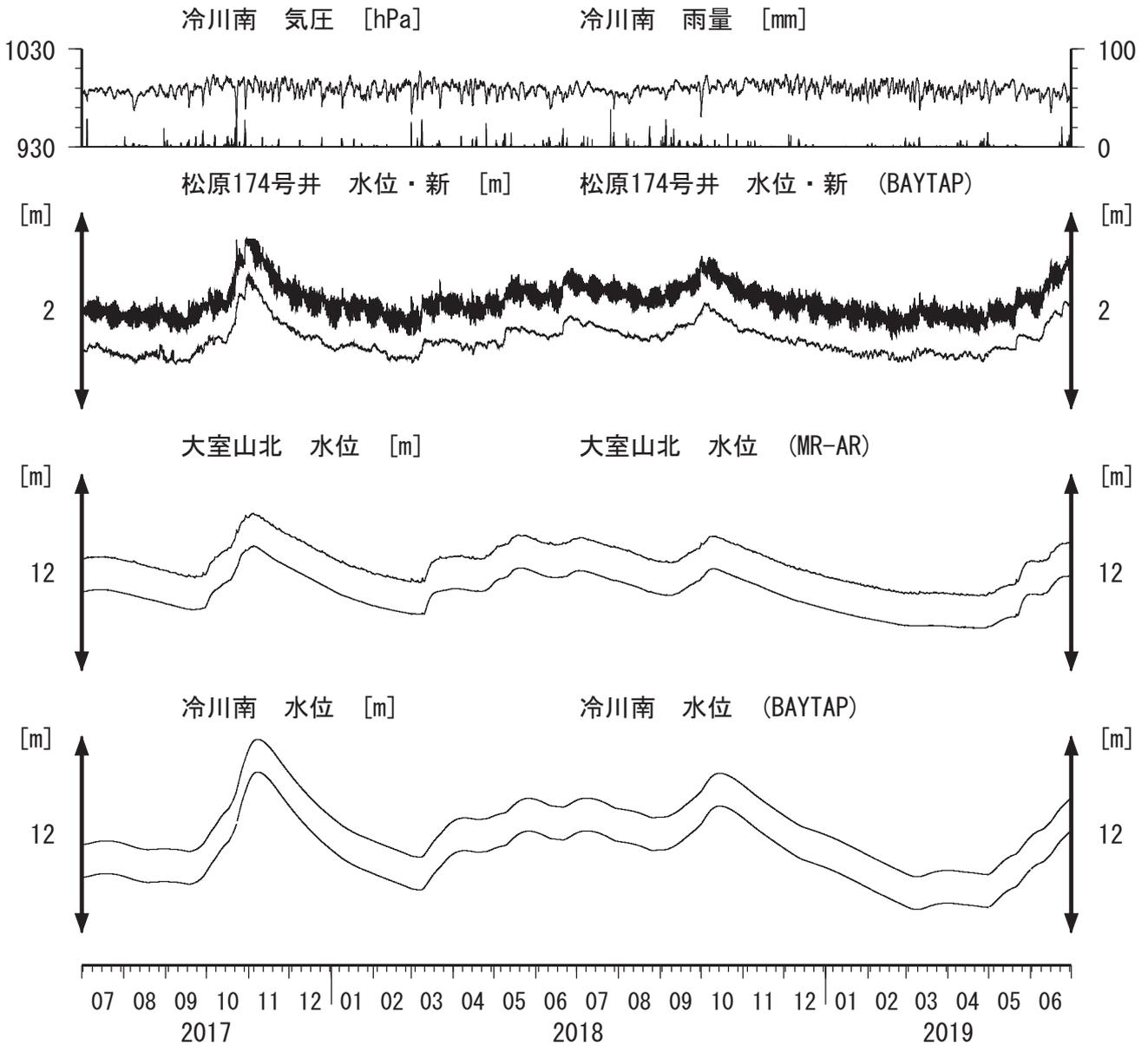
# 伊豆半島東部 地下水位 中期 (時間値) (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント : \*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.  
 @;月初めの補正值のギャップは、  
 解析プログラムの見かけ上のものである。  
 松原174号井は静岡県による観測。  
 松原174の水位計が長期的にドリフトしていることが  
 分かったので、2014年7月4日に新水位計を設置し、  
 更に2017年10月12日に交換した。



# 伊豆半島東部 地下水 長期 (時間値) (2017/07/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))

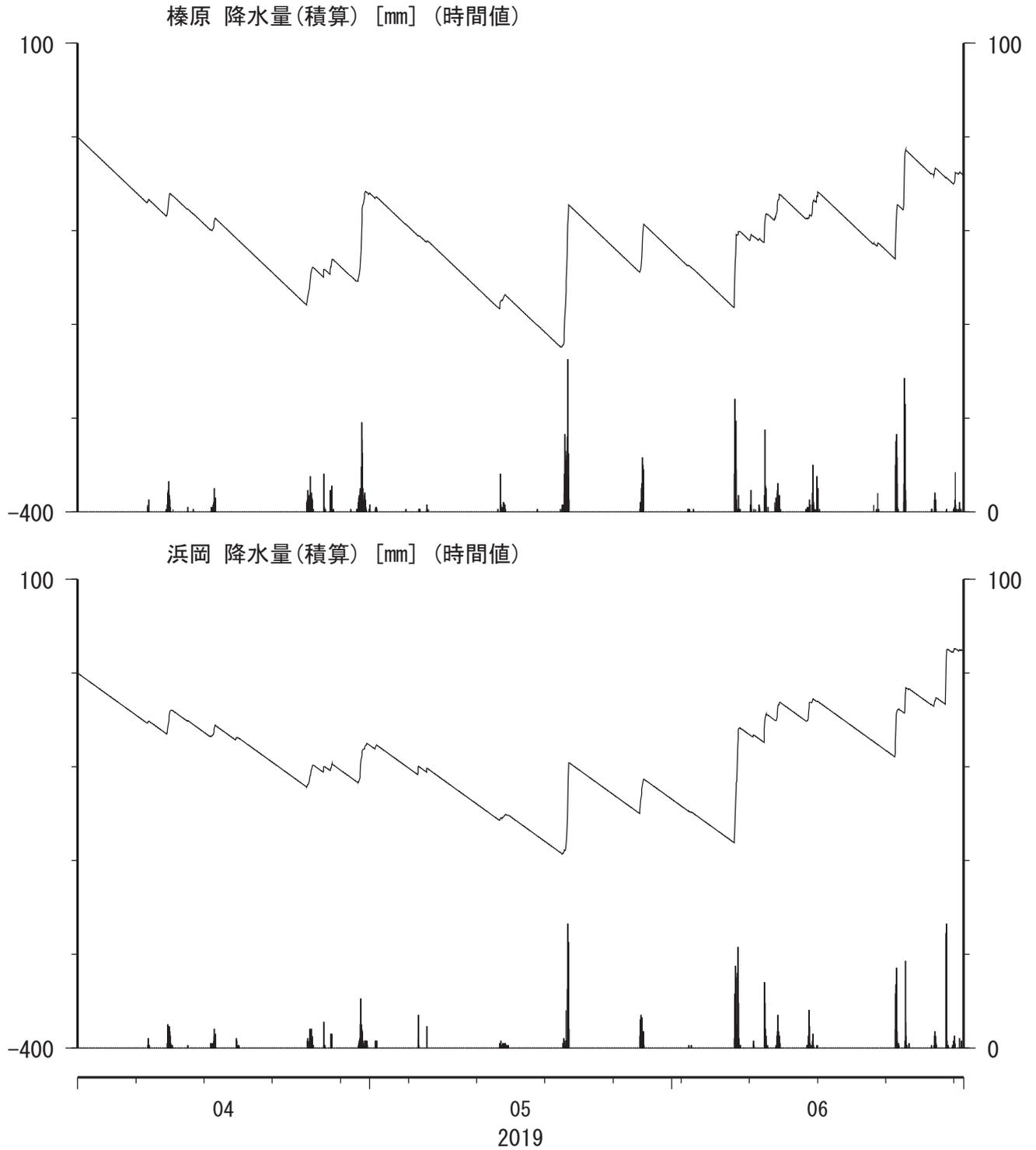


コメント：\*;雨量補正不十分. \$;保守. ?;不明.

松原174号井は静岡県による観測.  
 松原174水位計が長期的にドリフトしていることが  
 分かったので、2014年7月4日に新水位計を設置し、  
 更に2017年10月12日に交換した。  
 松原174の水位は2017年10月29日～11月6日頃まで  
 断続的に管頭から水があふれた。

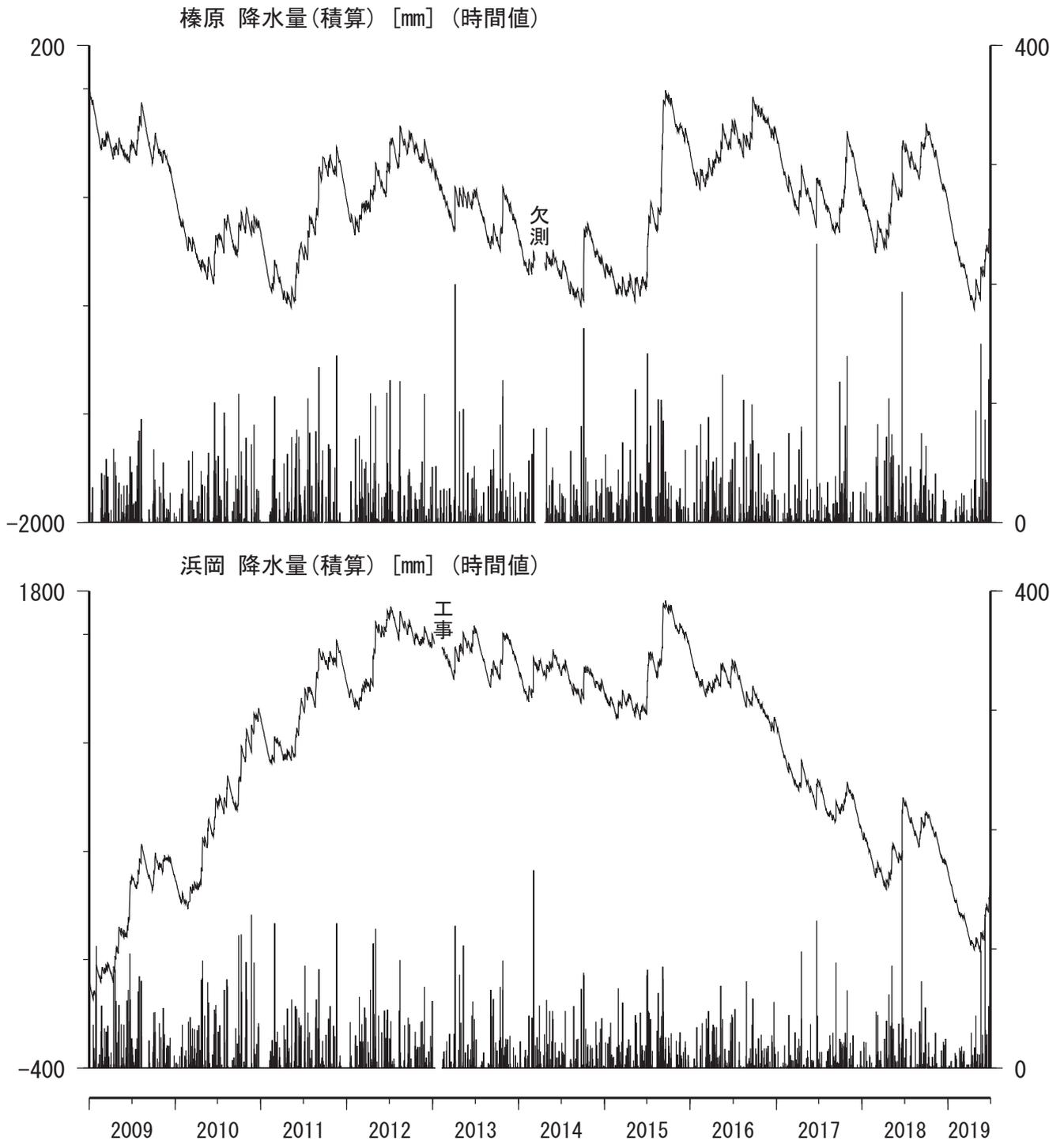


榛原・浜岡観測井 直近3ヶ月の積算降雨量トレンド除去グラフ [mm]  
 (2019/04/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

榛原・浜岡観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ [mm]  
 (2009/01/01 00:00 - 2019/07/01 00:00 (JST))



コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

## 東海・紀伊半島・四国における短期的 SSE 解析結果

産業技術総合研究所

2019年6月12日から18日にかけて、愛知県において深部低周波地震活動が観測された(図1)。図2は愛知県・長野県・静岡県産総研・気象庁の観測点における歪の観測結果である。これらの結果はBAYTAP-Gにより気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2019年6月4日から10日のデータを用いて1次トレンドを除去したものである。

図3は図2[A]の変化を説明する短期的SSEの推定結果(Mw5.6)である。今回の活動域付近における最近の短期的SSEの活動は、2018年6月19日午後から25日午前(Mw5.9;図2の灰色矩形1)、2018年10月13日から15日(Mw5.3;同2)、2019年2月3日から6日午前(Mw5.9;同3)、2019年2月6日午後から9日午前(Mw5.6;同4)、2019年2月9日午後から12日午前(Mw5.3;同5)、2019年2月28日から3月1日午前(Mw5.7;同6)、2019年3月1日午後から3日(Mw5.6;同7)、2019年4月22日午後から23日(Mw5.6;同8)である。

2019年6月23日から7月1日にかけて、三重県・愛知県において深部低周波地震活動が観測された(図4)。図3は三重県・愛知県・滋賀県産総研・気象庁・防災科研の観測点における歪・傾斜・地下水の観測結果である。歪・傾斜の結果はBAYTAP-Gにより気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除き、2019年6月17日から23日のデータを用いて1次トレンドを除去したものである。地下水の結果はMR-ARにより気圧応答成分、潮汐成分および降雨応答成分を取り除き、2019年6月17日から23日のデータを用いて1次トレンドを除去したものである。

図6,7,8はそれぞれ図5[A],[B],[C]の変化を説明する短期的SSEの推定結果(Mw5.6,5.6,5.5)である。今回の活動域付近における最近の短期的SSEの活動は、2019年2月3日から6日午前(Mw5.9;図6,7,8の灰色矩形1)、2019年2月6日午後から9日午前(Mw5.6;同2)、2019年2月9日午後から12日午前(Mw5.3;同3)、2019年2月10日から15日(Mw5.8;同4)、2019年2月16日から18日(Mw5.5;同5)、2019年2月28日から3月1日午前(Mw5.7;同6)、2019年3月1日午後から3日(Mw5.6;同7)、2019年4月22日午後から23日(Mw5.6;同8)である。

### 解析方法

短期的SSEの断層面推定には、それぞれの観測点の水平歪4成分、体積歪、地下水圧、もしくは傾斜2成分の記録を用いる。地下水圧は、O1およびM2分潮の振幅をBAYTAP-G[Tamura et al., 1991]により計算し、GOTIC2[Matsumoto et al., 2001]により推定した地球固体潮汐および海洋荷重潮汐(O1およびM2分潮)との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波形からBAYTAP-Gにより、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イベント直前の期間を用いて1次トレンドも取り除く。深部低周波地震活動も参考にして、数時間～半日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的SSEによる変化量とする。その際、歪についてはMatsumoto et al. [2010]の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行っている。

断層面の推定は、計算時間の短縮と、推定された結果の一意性の確認のために2段階で行う。断層面推定は板場ほか[2012]の手法を用いた。フィリピン海プレート境界面上[弘瀬ほか, 2007]に多数の断層面を仮定してグリッドサーチにより推定する。仮定した断層面上のすべりによって各観測点で期

待される歪変化の計算には Okada [1992]のプログラムを用いる。1 段階目には、断層面のサイズは幅・長さ共に 20 km で固定し、断層面の位置 (0.1° 間隔) およびすべり量 (1-50 mm) のみ可変として計算を行う。1 段階目の結果を示す図では、それぞれの断層面において最適なすべり量を与えたときの、観測値とそのすべり量による計算値との残差の総和の分布を示している。これにより、短期的 SSE が生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、2 段階目で推定された結果の任意性を確認することができる。2 段階目では、1 段階目で絞り込んだ領域 (=残差が小さい領域) 付近で、位置及びすべり量に加えて、断層面の長さ (10-80 km の間で 1 km 間隔) および幅 (10-50 km の間で 1 km 間隔) を可変として計算を行なう。その結果、観測値との残差が最小となる解が 1 つ計算されるが、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては任意性が高くなるので注意が必要である。なお、異種観測値を統合して解析するため、観測点ごとに残差をノイズレベルによって規格化している。ノイズレベルは、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除いた後 (微動活動が活発な期間および周辺の日雨量 50 mm を超える時期を除く) の 24 時間階差の  $2\sigma$  とした。

## 謝辞

短期的 SSE の断層モデル推定には、防災科研 Hi-net 高感度加速度計 (傾斜計) および気象庁の多成分歪計および体積歪計の記録とキャリブレーション係数を使用しました。深部低周波地震の震央位置表示には、気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

## 参考文献

弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography 法による西南日本の 3 次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, *地震* **2**, **60**, 1-20.

板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 松澤孝紀, 歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロースリップイベントのモニタリング, *日本地球惑星連合 2012 年大会*, 千葉, 5 月, 2012.

Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.

Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.

Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.

Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.

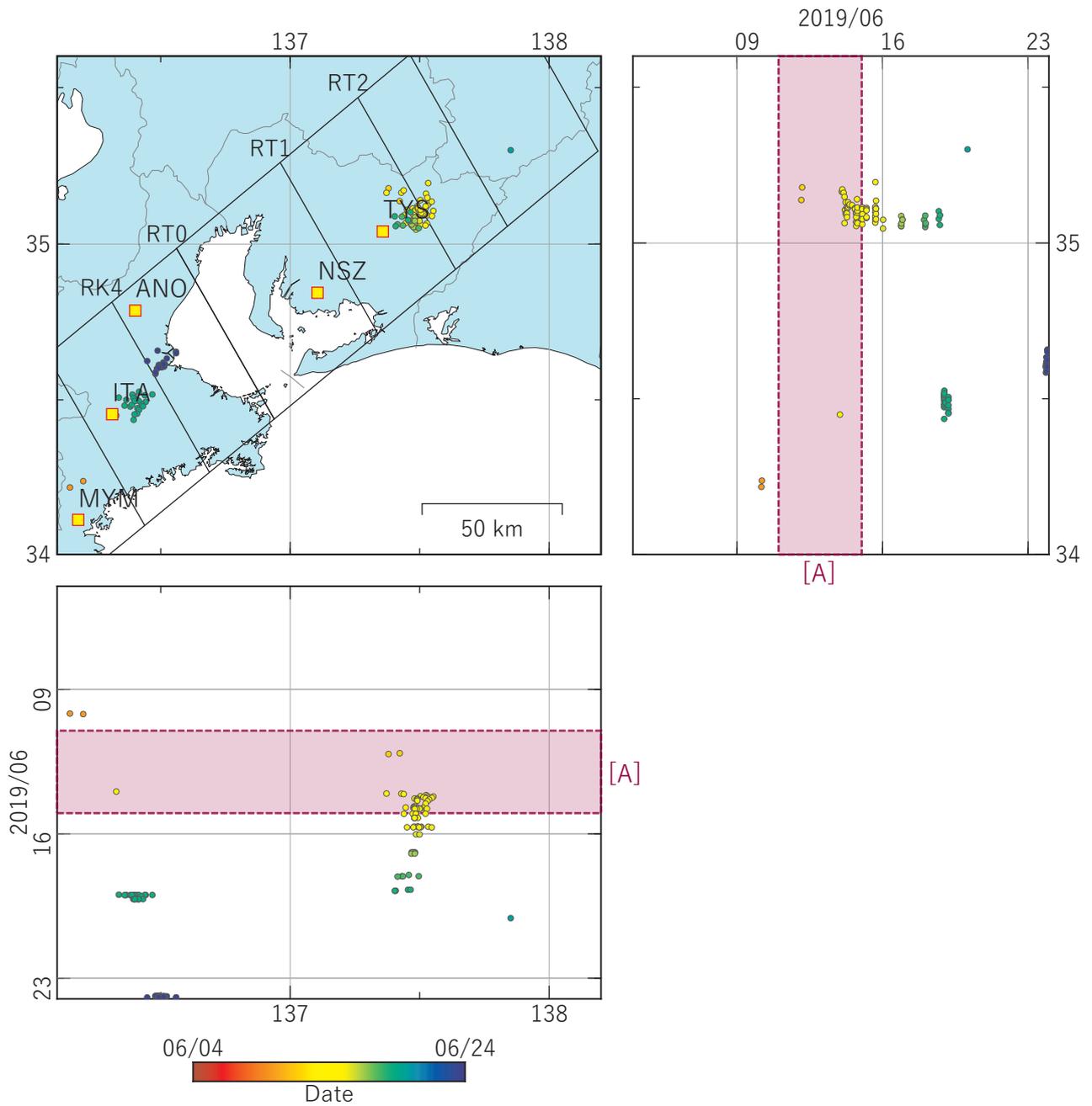


図1 東海地方における深部低周波地震（気象庁）の時空間分布図  
 (2019/06/04 00:00 - 2019/06/24 00:00 (JST))  
 (観測点) TYS: 豊田神殿, NSZ: 西尾善明, ANO: 津安濃, ITA: 松阪飯高, MYM: 紀北海山

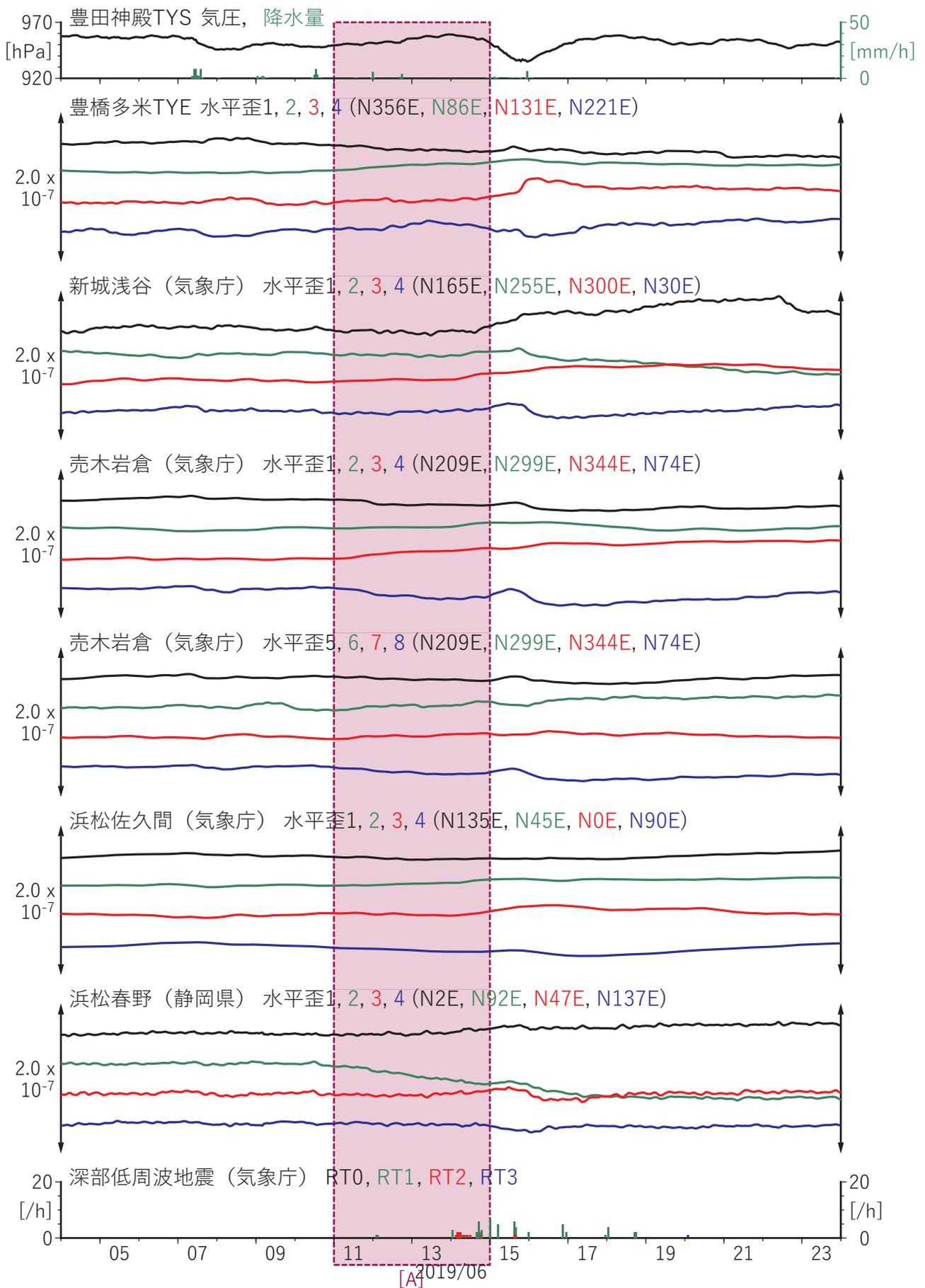
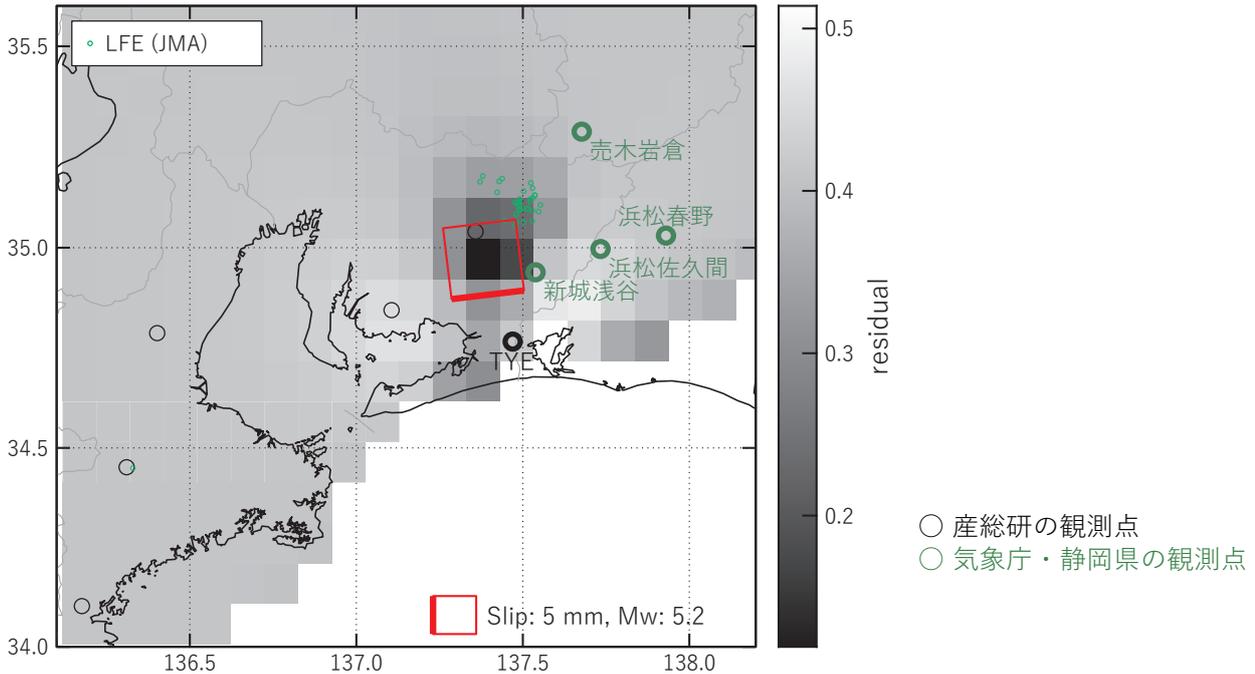


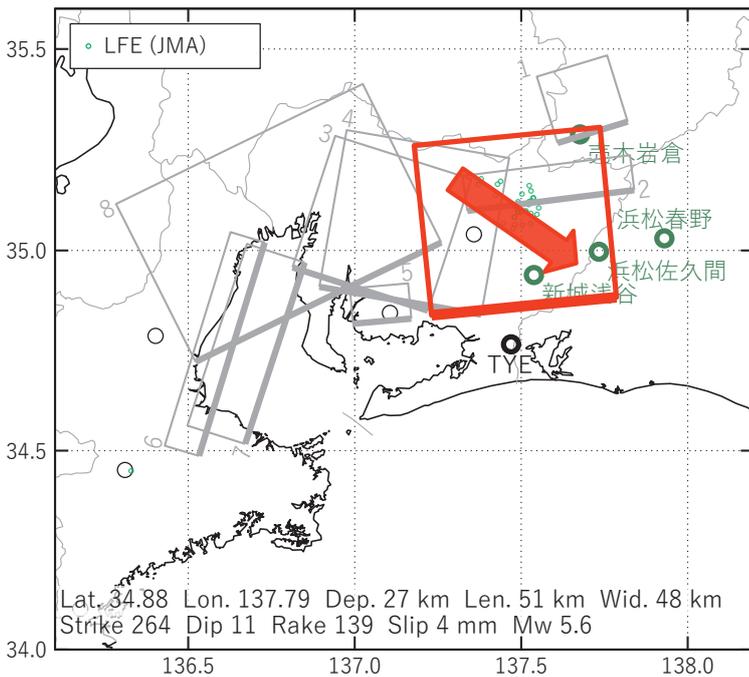
図2 東海地方における歪観測結果 (2019/06/04 00:00 - 2019/06/24 00:00 (JST))

[A] 2019/06/11-14

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪

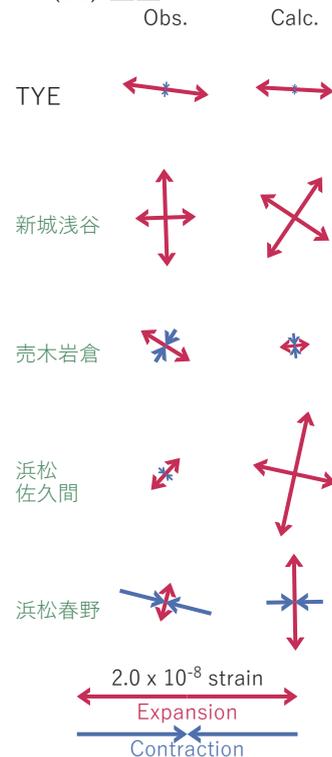


図3 2019/06/11-14の歪変化 (図2[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2018/06/19PM-25AM (Mw5.9), 2: 2018/10/13-15 (Mw5.3), 3: 2019/02/03-06AM (Mw5.9)

4: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 5: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)

7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

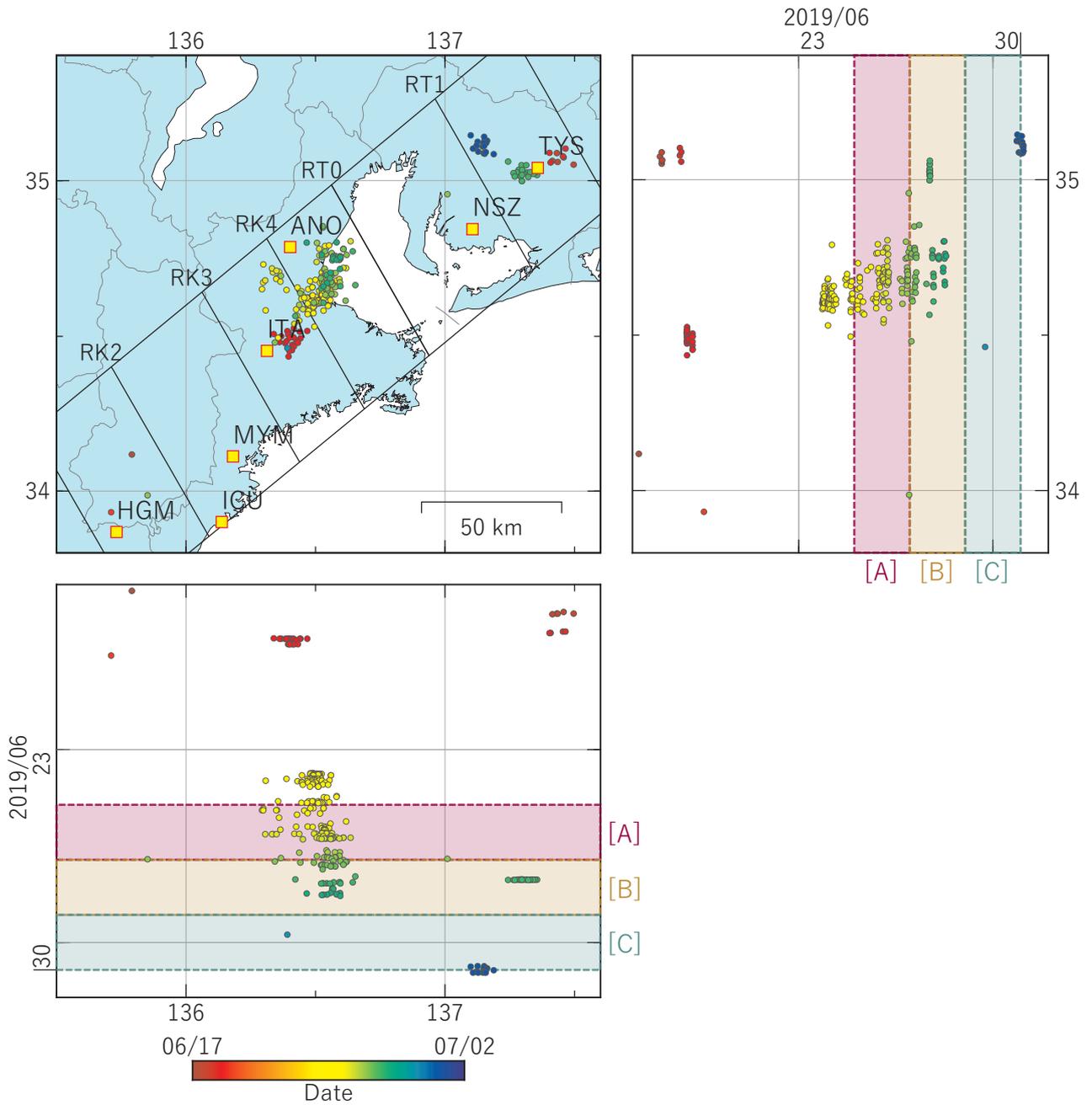


図4 紀伊半島から東海地方における深部低周波地震（気象庁）の時空間分布図  
 (2019/06/17 00:00 - 2019/07/02 00:00 (JST))  
 (観測点) TYS : 豊田神殿, NSZ : 西尾善明, ANO : 津安濃, ITA : 松阪飯高,  
 MYM : 紀北海山, ICU : 熊野磯崎, HGM : 田辺本宮

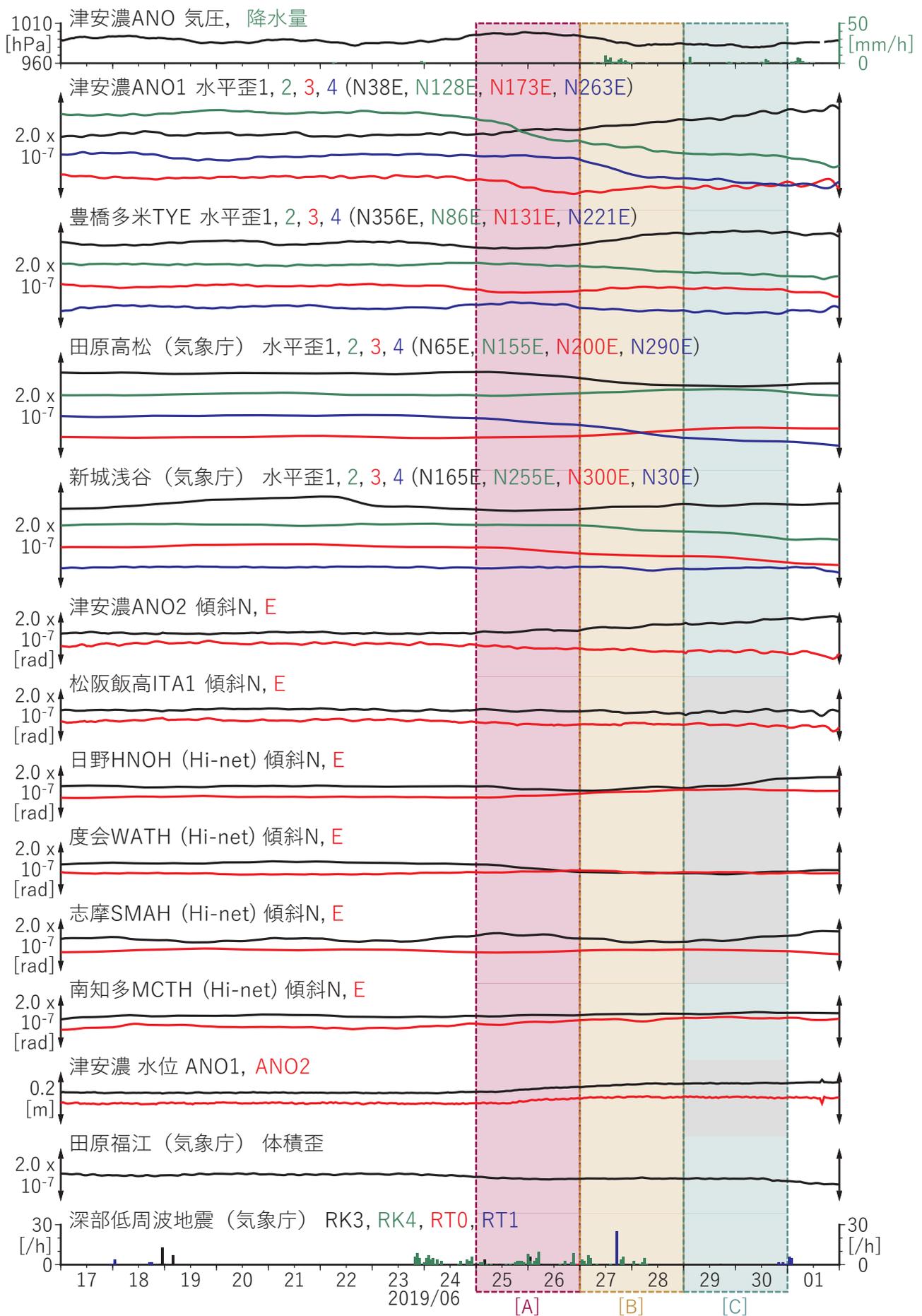
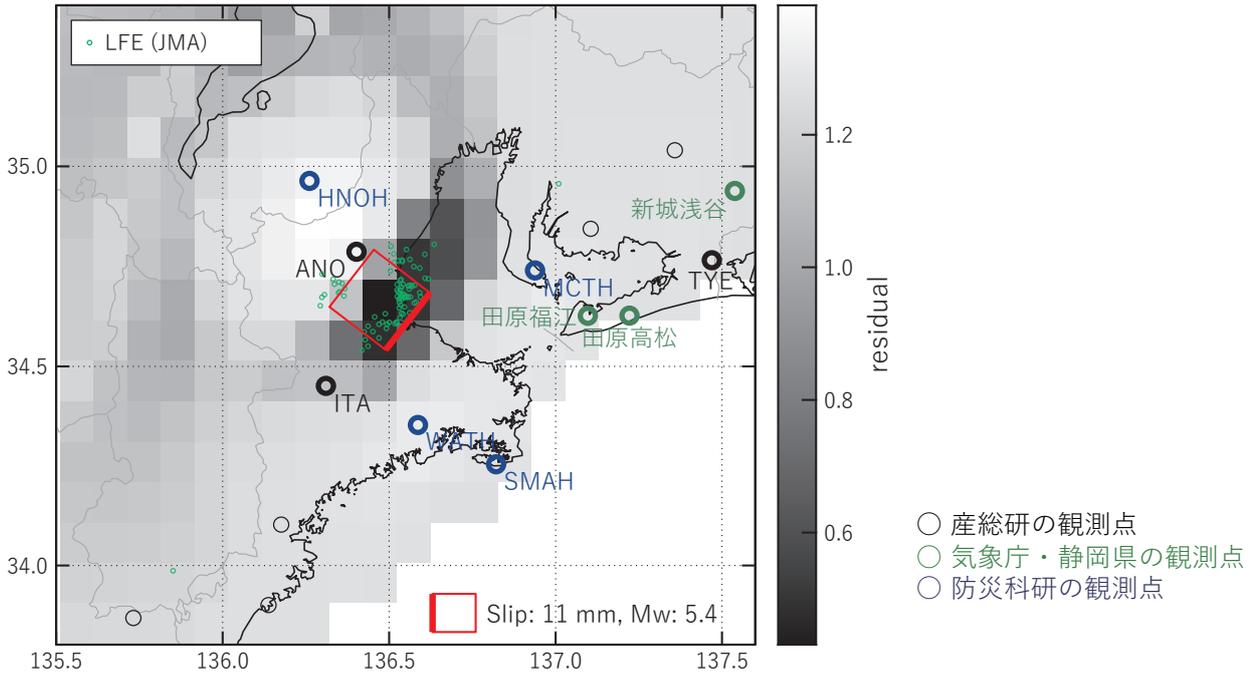


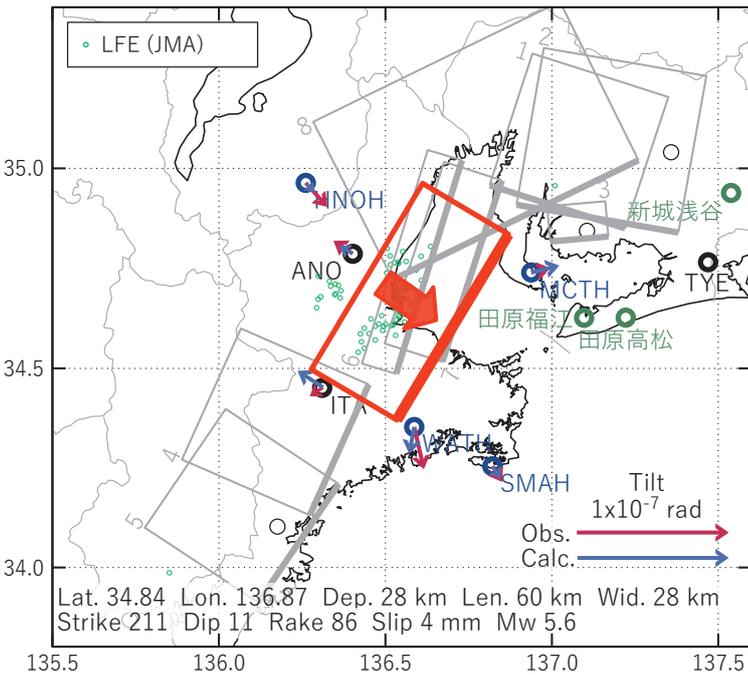
図5 紀伊半島から東海地方における歪・傾斜・地下水観測結果  
(2019/06/17 00:00 - 2019/07/02 00:00 (JST))

[A] 2019/06/25-26

(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

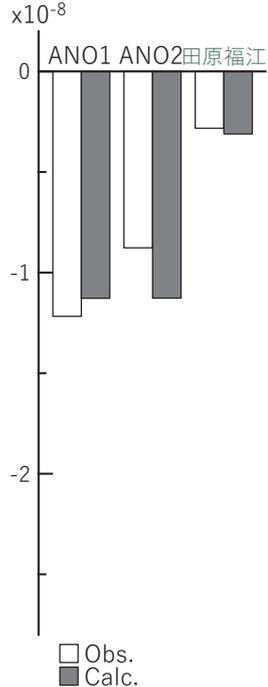


図6 2019/06/25-26の歪・傾斜・地下水変化 (図5[A]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2019/02/03-06AM (Mw5.9), 2: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 3: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)

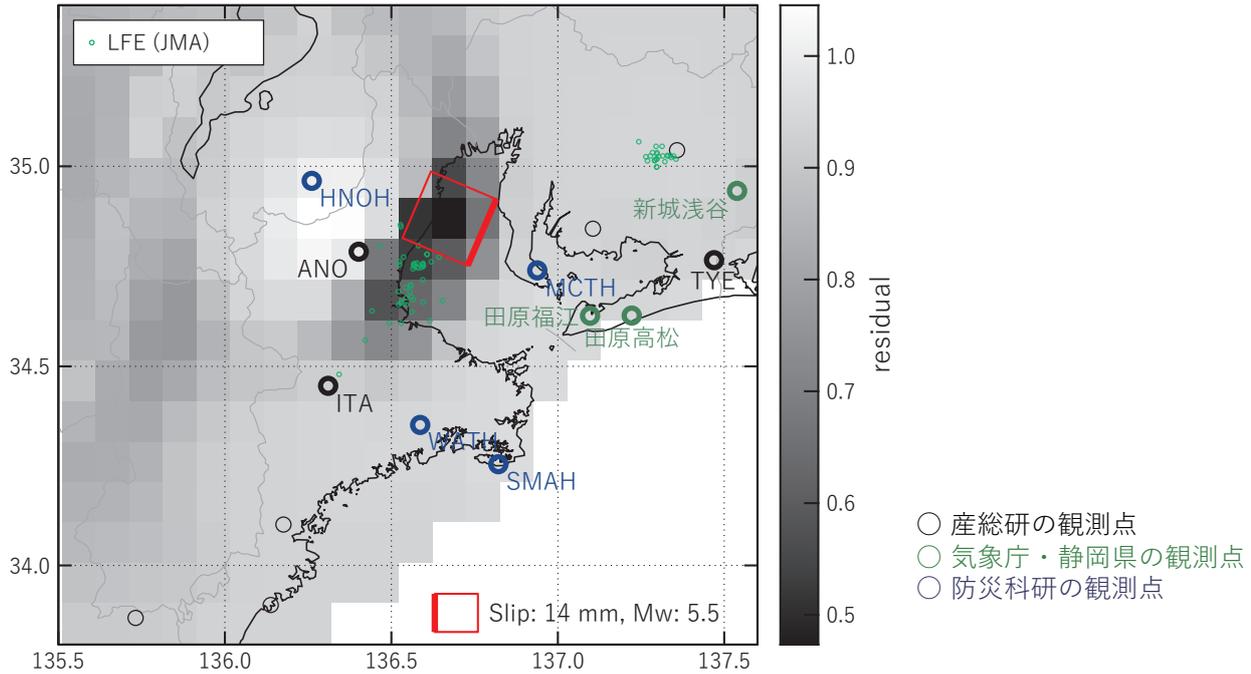
7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

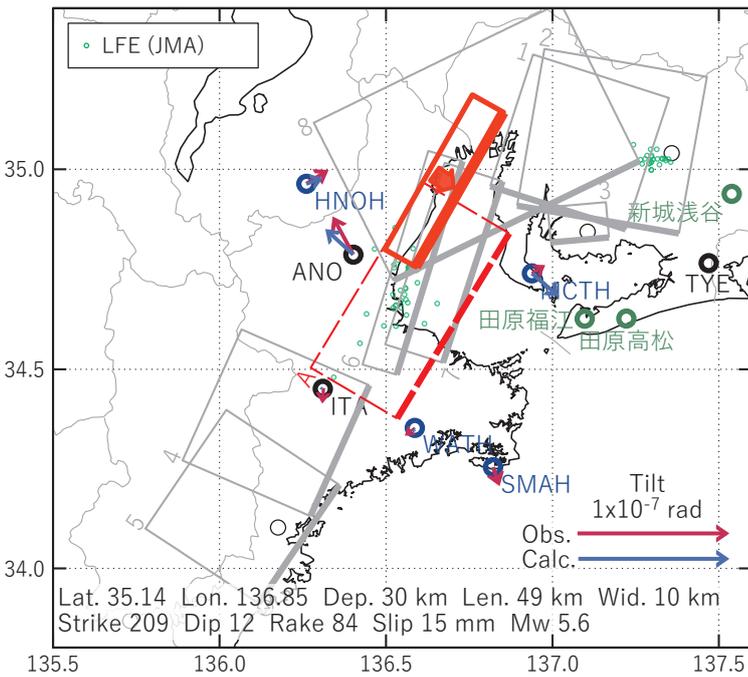
(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。地下水圧は体積歪に変換して計算している。

[B] 2019/06/27-28

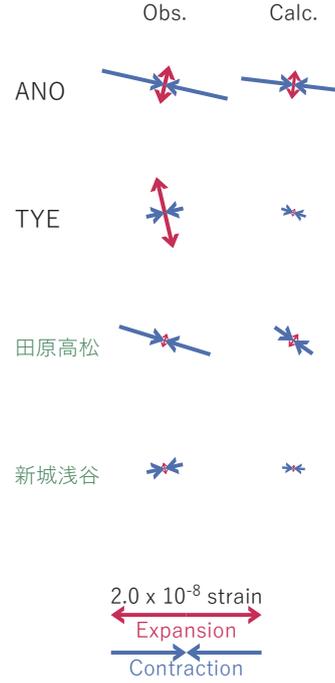
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

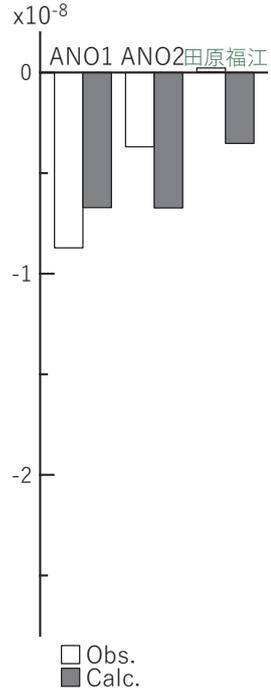


図7 2019/06/27-28の歪・傾斜・地下水変化 (図5[B]) を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色破線矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2019/02/03-06AM (Mw5.9), 2: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 3: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)

7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

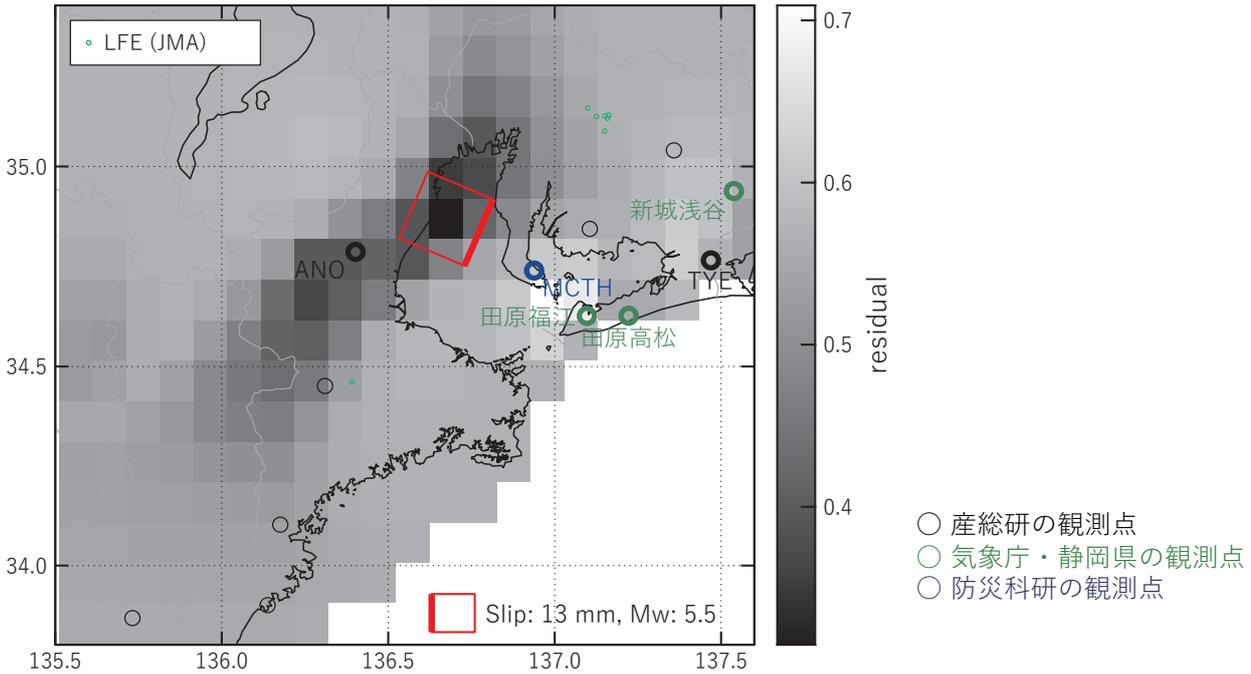
A: 2019/06/25-26 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

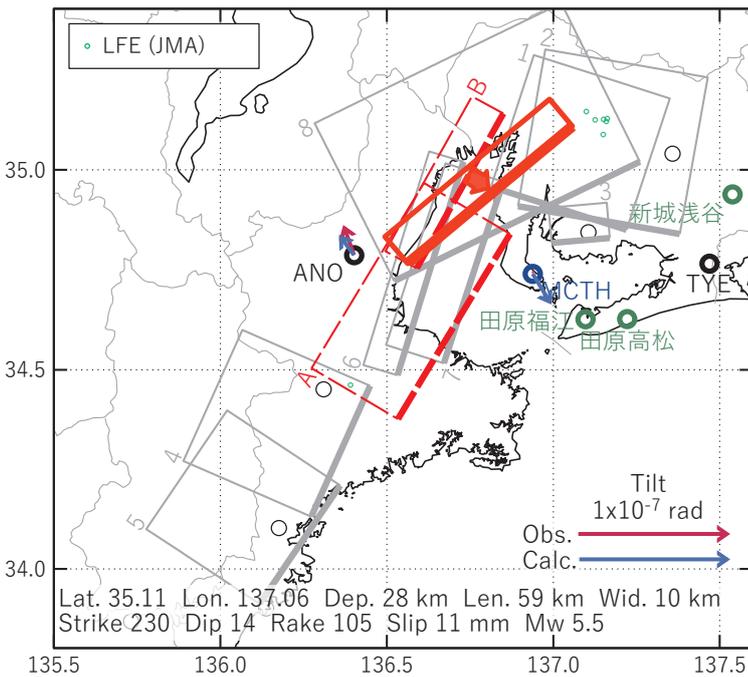
(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。地下水圧は体積歪に変換して計算している。

[C] 2019/06/29-30

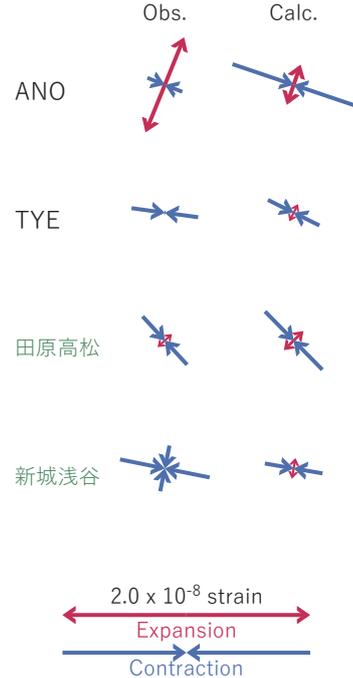
(a) 断層の大きさを固定した場合の断層モデルと残差分布



(b1) 推定した断層モデル



(b2) 主歪



(b3) 体積歪

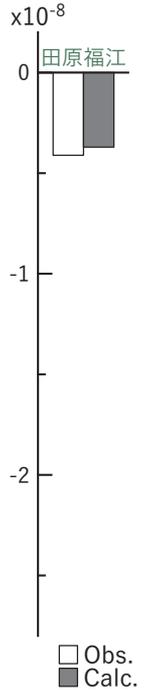


図8 2019/06/29-30の歪・傾斜・地下水変化(図5[C])を説明する断層モデル。

(a) プレート境界面に沿って分布させた20×20kmの矩形断層面を移動させ、各位置で残差の総和を最小とするすべり量を選んだ時の残差の総和の分布。赤色矩形が残差の総和が最小となる断層面の位置。

(b1) (a)の位置付近をグリッドサーチして推定した断層面(赤色矩形)と断層パラメータ。灰色矩形は最近周辺で発生したイベントの推定断層面。赤色破線矩形は今回の一連のイベント。

1: 2019/02/03-06AM (Mw5.9), 2: 2019/02/06PM-09AM (Mw5.6), 3: 2019/02/09PM-12AM (Mw5.3)

4: 2019/02/10-15 (Mw5.8), 5: 2019/02/16-18 (Mw5.5), 6: 2019/02/28-03/01AM (Mw5.7)

7: 2019/03/01PM-03 (Mw5.6), 8: 2019/04/22PM-23 (Mw5.6)

A: 2019/06/25-26 (Mw5.6), B: 2019/06/29-30 (Mw5.6)

(b2) 主歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。

(b3) 体積歪の観測値と(b1)に示した断層モデルから求めた計算値との比較。地下水圧は体積歪に変換して計算している。

## 室戸岬観測点および串本津荷観測点における地震後の歪変化について

産業技術総合研究所

高知県土佐清水市の土佐清水松尾観測点においては、地震後にゆっくりとした歪変化が生じていたことが分かった。今回、高知県室戸市の室戸岬観測点（MUR）と和歌山県串本町の串本津荷観測点（KST）の歪に地震後に同様の変化が生じていたかを調査した。

### 室戸岬観測点（MUR）

調査期間：2008/09/01-2019/06/25

調査範囲：北緯 32～35 度、東経 132～136 度の範囲の M5 以上の地震

あるいは高知県室戸市で震度 3 以上の地震

### 結果

全部で 23 個の地震（うち連続して起きた地震が 3 組 6 個あったので調査期間は 20 期間）を調査した。1 例（2009/07/22 四国沖の地震 M4.6&2009/07/23 四国沖の地震 M4.1）だけ、地震後に歪（strain 4）が変化していた可能性があった（図 1）。2009/07/22 四国沖の地震（M4.6）での室戸市の震度は 4 であり、調査期間中で最大の震度であった。室戸岬観測点孔 3（MUR3）の水位が変化していた。

### 串本津荷観測点（KST）

調査期間：2008/09/01-2019/06/25

調査範囲：北緯 32～35 度、東経 134～138 度の範囲の M5 以上の地震

あるいは和歌山県串本町で震度 3 以上の地震

### 結果

全部で 15 個の地震を調査した。そのうちの 9 例で地震後に歪変化が見られたが、5 例では周辺で低周波微動・短期的 SSE が発生していた。低周波微動・短期的 SSE がなかった 4 例は以下である。

2013/11/19 遠州灘の地震 M5.7（図 2）

2016/11/19 和歌山県南部の地震 M5.4（図 3）

2018/06/18 大阪府北部の地震 M6.1（図 4）

2019/03/13 紀伊水道の地震 M5.3（図 5）

地震後の歪変化は、2016/11/19 和歌山県南部の地震（M5.4）では比較的明確であるが、その他は明瞭ではない。4 例中 3 例で串本津荷観測点孔 2（KST2）の水位が変化していた。

2009/07/22 四国沖の地震(M4.6) & 2009/07/23 四国沖の地震(M4.1)

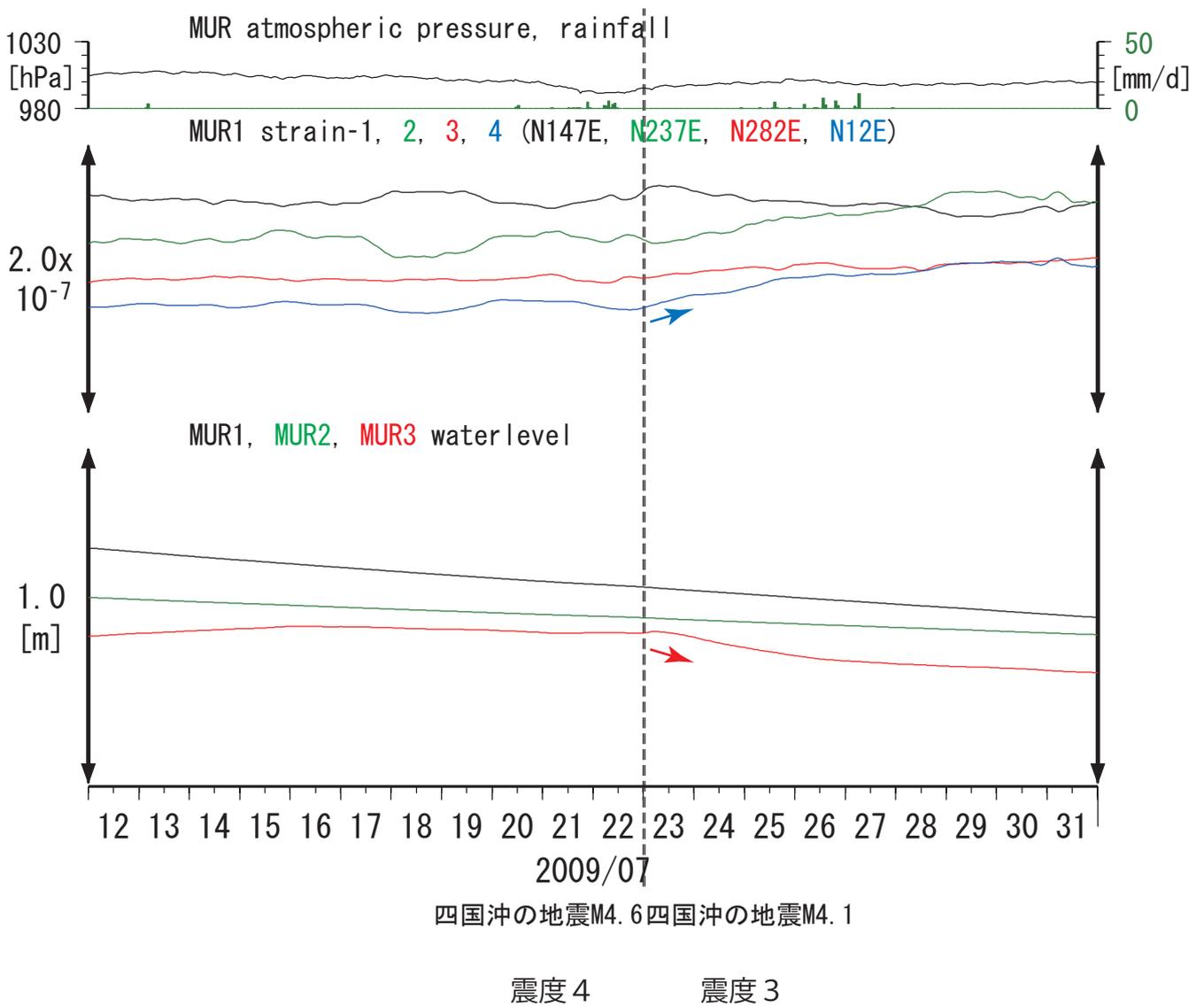


図1: 地震前後のMURにおける歪・水位変化。  
 潮汐・気圧応答成分を除去している。  
 加えて、歪については地震前までの1次トレンドを除去している。

2013/11/19 遠州灘の地震(M5.7)

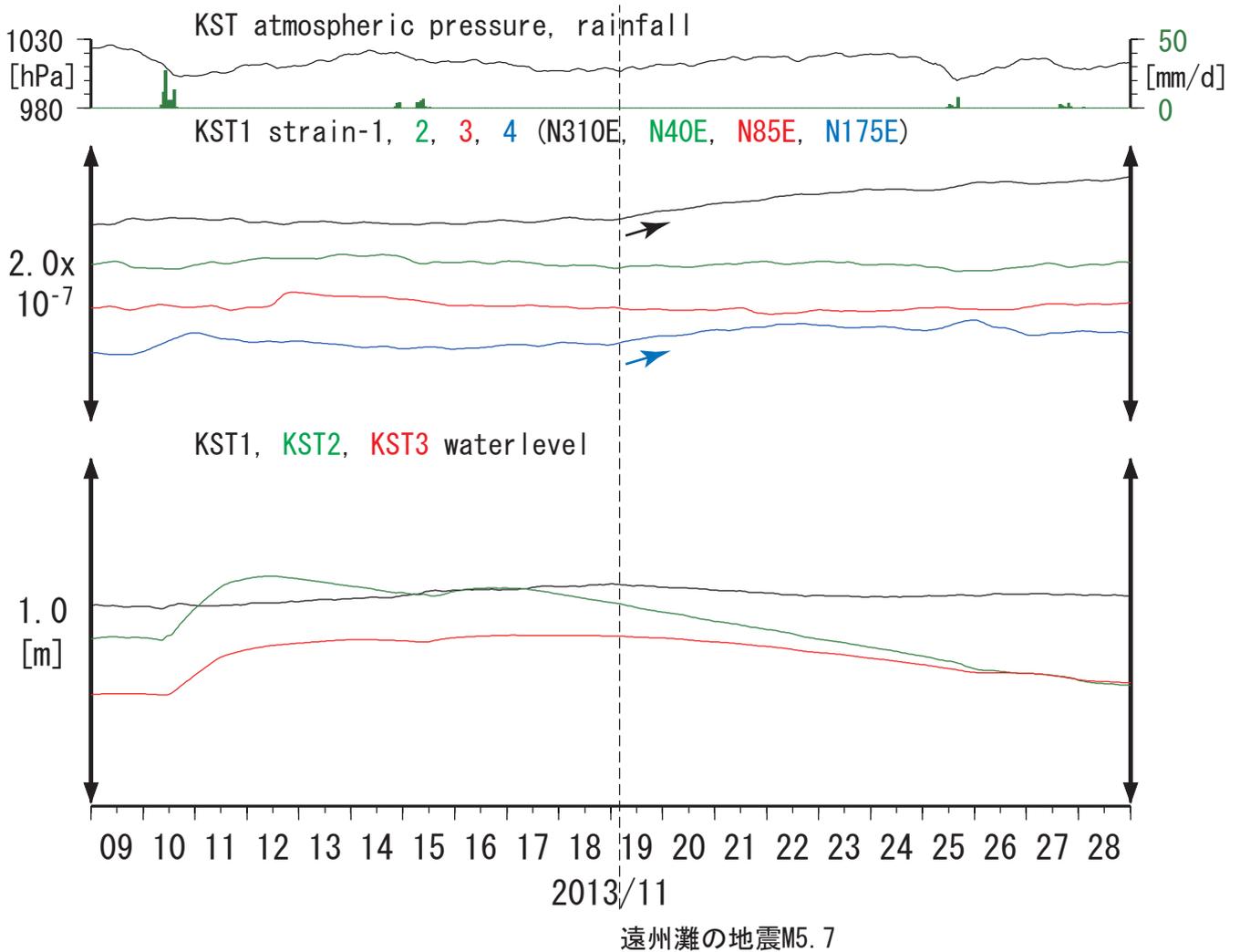
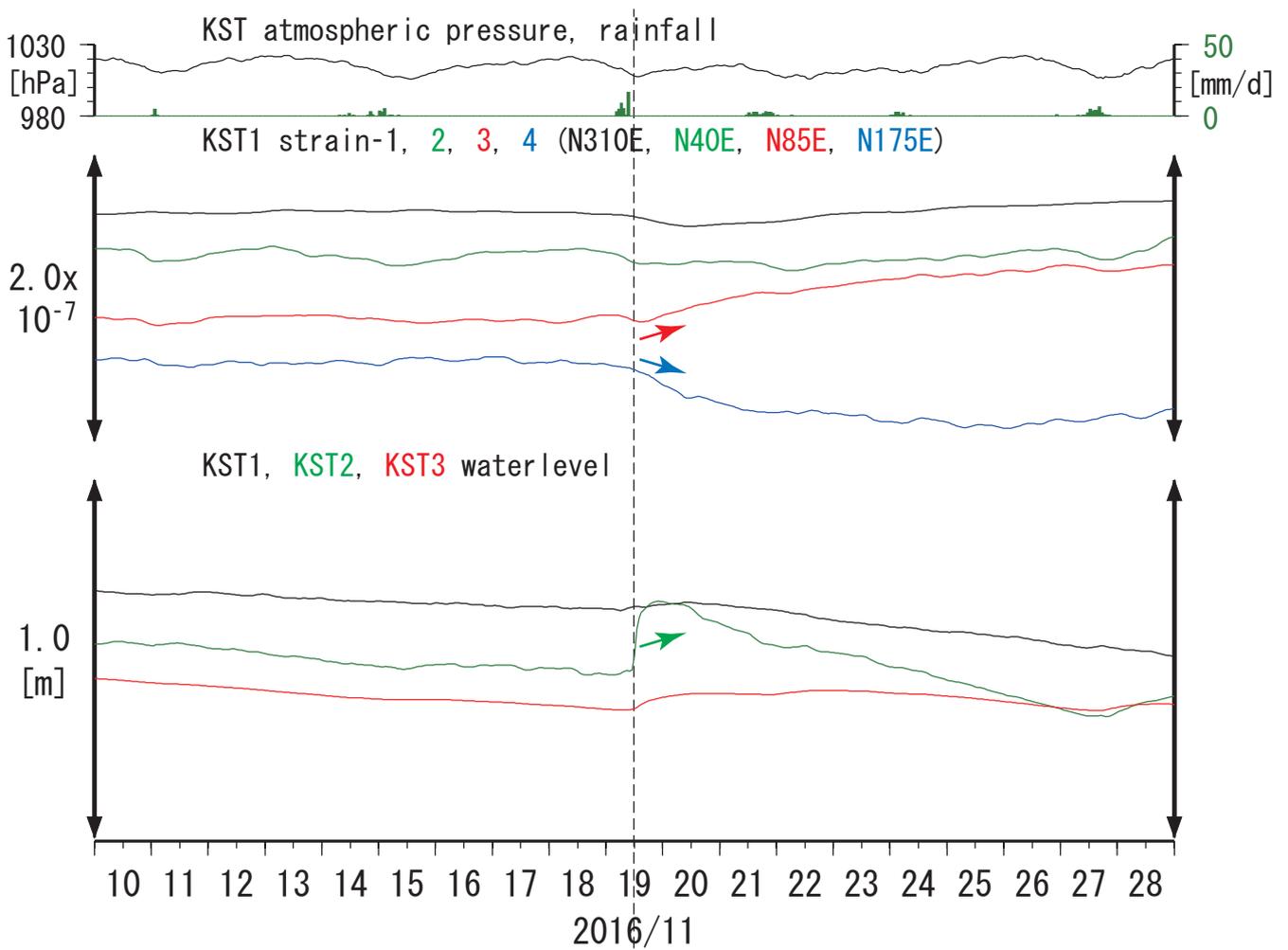


図2: 地震前後のKSTにおける歪・水位変化。  
 潮汐・気圧応答成分を除去している。  
 加えて、歪については地震前までの1次トレンドを除去している。

2016/11/19 和歌山県南部の地震(M5.4)



和歌山県南部の地震M5.4

震度3

図3: 地震前後のKSTにおける歪・水位変化。  
 潮汐・気圧応答成分を除去している。  
 加えて、歪については地震前までの1次トレンドを除去している。

2018/06/18 大阪府北部の地震(M6.1)

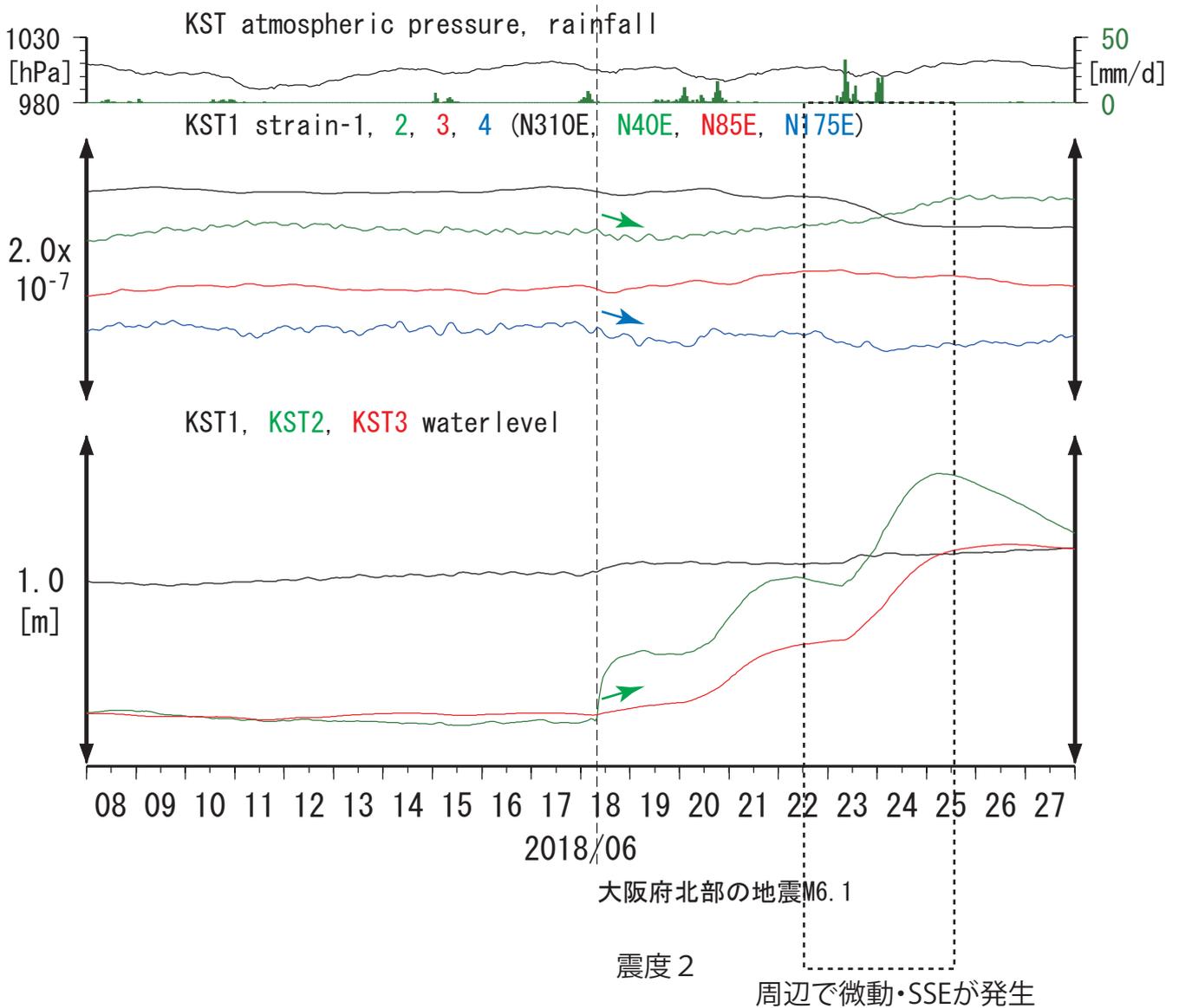
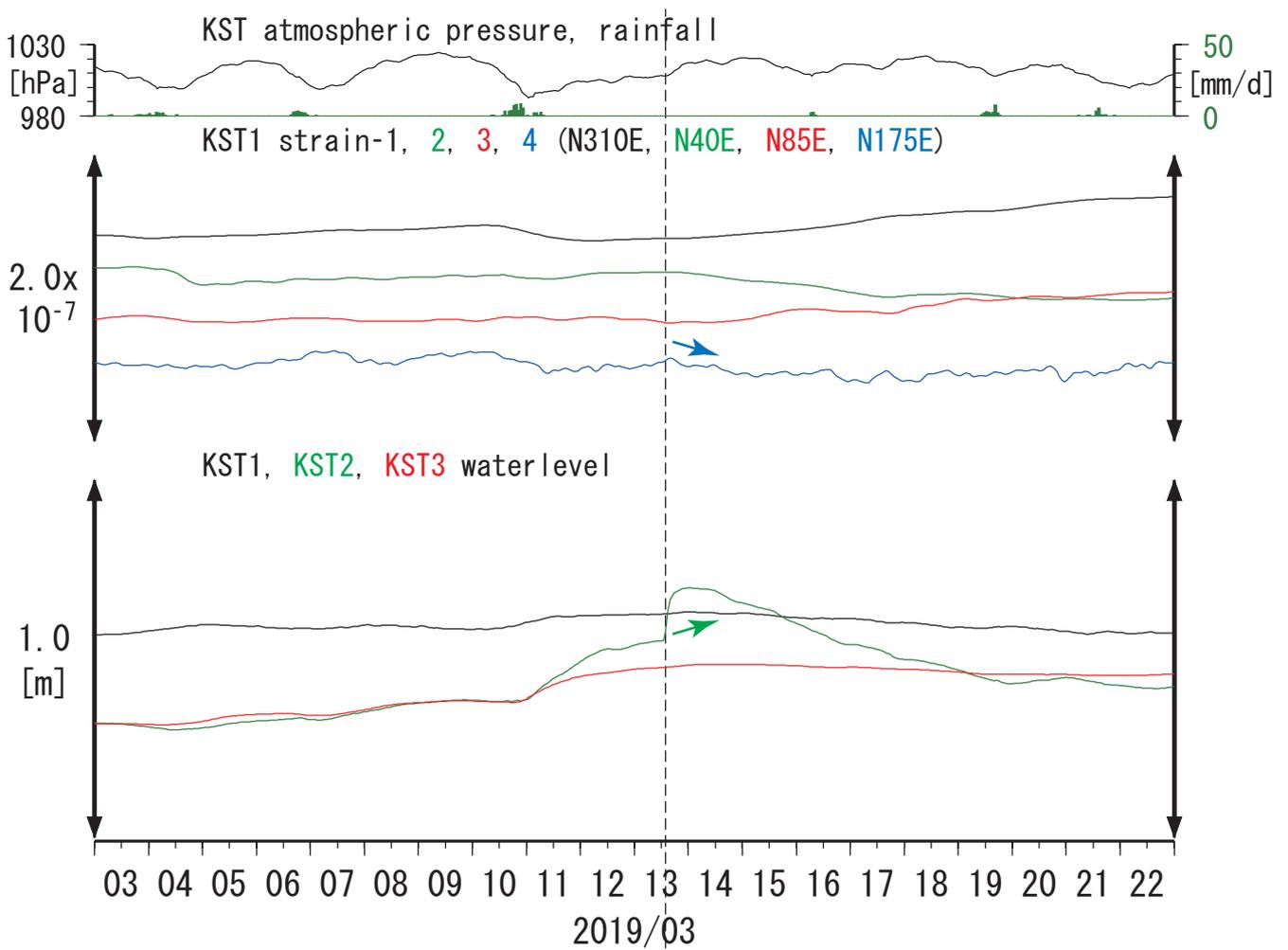


図4: 地震前後のKSTにおける歪・水位変化。  
 潮汐・気圧応答成分を除去している。  
 加えて、歪については地震前までの1次トレンドを除去している。

2019/03/13 紀伊水道の地震(M5.3)



紀伊水道の地震M5.3

震度 2

図5: 地震前後のKSTにおける歪・水位変化。  
 潮汐・気圧応答成分を除去している。  
 加えて、歪については地震前までの1次トレンドを除去している。